

第16回教育委員会②

開会日時 令和5年 8月 3日(木) 午前 10時00分
閉会日時 午後 2時12分
開会場所 教育支援センター

出席者

教 育 長	中 川 修 一
委 員	高 野 佐 紀 子
委 員	青 木 義 男
委 員	長 沼 豊
委 員	野 田 義 博

出席事務局職員

事務局次長	水 野 博 史	地域教育力担当部長	雨 谷 周 治
教育総務課長	諸 橋 達 昭	学 務 課 長	金 子 和 也
指 導 室 長	氣 田 眞 由 美	新しい学校づくり課長	柏 田 真
学校配置調整担当課長	早 川 和 宏	施設整備担当副参事	伊 東 龍 一 郎
生涯学習課長	太 田 弘 晃	地域教育力推進課長	高 木 翔 平
教育支援センター所長	石 野 良 恵	中央図書館長	松 崎 英 司

署名委員

教育長

委 員

午前 10時 00分 開会

教 育 長 おはようございます。本日は4名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立しております。

それでは、ただいまから7月27日の継続として、令和5年第16回の教育委員会を開催いたします。

本日の会議に出席する職員は、水野次長、雨谷地域教育力担当部長、諸橋教育総務課長、金子学務課長、氣田指導室長、柏田新しい学校づくり課長、早川学校配置調整担当課長、伊東施設整備担当副参事、太田生涯学習課長、高木地域教育力推進課長、石野教育支援センター所長、松崎中央図書館長、以上12名でございます。

本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により、高野委員にお願いいたします。

本日の委員会は14名からの傍聴申し出がなされており、会議規則第30条により許可しましたので、お知らせいたします。

本日の会議時間は、板橋区教育委員会会議規則第11条に基づき、通常は正午までのところを午後3時までと変更いたします。

なお、本日は長時間の審議になるため、出席職員は業務の都合上、会議を中座することがございますことをあらかじめご了承ください。

また、議事運営の都合上、この後、12時までを目途に午前の審議をし、休憩を挟み、午後の審議を進めてまいります。

本日の進行は議事の運営の都合上、日程第一 議案第44号及び日程第二 請願第1号「板橋区の小学校教科書採択に関する請願」の審議を行った後、休憩を挟み、残りの議案の審議及び報告事項の聴取を行いたいと思います。

○議事

日程第一 議案第44号 令和6年度区立小・中学校使用教科用図書の採択について

(指導室)

教 育 長 それでは、議事に入ります。日程第一 議案第44号「令和6年度区立小・中学校使用教科用図書の採択について」、審議します。

前回は、「家庭」まで審議いたしました。本日は、「保健」から審議いたします。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 よろしく願います。「保健」につきましては、6社でございます。

東京書籍、大日本図書、大修館書店、文教社、光文書院、学研から採択をお願いいたします。

教 育 長 それでは審議に入ります。質疑、意見等ございましたら、ご発言ください。それでは、高野委員。

高野委員 保健は、私は、この中から3社ほど推薦したいと思います。

まず、1社目が東京書籍です。東京書籍は、1単位時間は5から6ページで構成されていて、「気づく」「調べる」「深める」「まとめる」という流れで構成されていて、板橋区授業スタンダードの流れに沿っています。

学習の課題が教科書の左上に大きく示されていて、児童がその時間に何を身につけるかということが非常に分かりやすくなっています。

教科書の中に書き込む欄がありますので、そこに書き込みながら学習を進めることができるようになっていて、また、まとめの部分は穴埋め式になっているため、学習したことを確かめながら記入できて、大変分かりやすくなっています。

4年のところの28ページの「体の成長と私」というところなのですが、ここは自分の身長伸びをグラフや計算で、実際に表せるようになっていて、子どもたちが主体的に学習に取り組める内容になっています。

ただ、少しこのところは、1時間にとっては、情報量としては少し多くなっている点が、使いこなしていく上では難しいのかなと思います。

また、4年の34ページの「思春期に現れる変化」というところでは、男子特有の変化、女子特有の変化、男女共通の変化というふうに分類して表記しています。この他にも、全般的に表記・表現に配慮が見られます。

あと、38ページの「性と自分らしさ」というところでは、体の性以外にも、心の性、それから、好きになる性、表現したい性というのが、自分らしさの中に4つの性として表されていて、一人一人みんな違っていることを肯定的に説明している点が、他の教科書と比べて、具体的で分かりやすいなというふうに思いました。

あと、3、4年の3ページのところに、「どのような自分になりたいかな」ということで、学習を3年で始めて、4年生の終わりに、それが初めはこうだったけど、それは自分としてはできるようになったかなというのがチェックできて、変化を感じることができます。

また、同じものが5、6年の77ページ、後ろの表紙のところなのですが、そこに「どんな自分になれたかな」というのがあって、自分自身を振り返ることができるようになっています。

東京書籍の方は、大変詳しくて丁寧なのですが、情報量がすごく多いため、使いこなせるかどうかというところが少し気になるところです。

2社目は、大修館書店です。大修館書店は、3、4年の巻頭に、「生活の中の保健を探そう」というイラストがあります。生活するまちの全体を見ながら、身の回りに保健に関する事象がたくさんあることに気づかせて、そして、次の2ページで、なぜ保健を学ぶのかなということを子どもたちに考えさせています。

同じく、今度5、6年生になると、5、6年生の巻頭では、「生活の中の保健を探そう」ということで、新聞記事やニュースを中心に、身の回りの事柄に注目していく。そして、健康や安全に関することを考えさせるというふうになっています。

大修館書店は、どの單元にも、ステップ1で「課題をつかむ」、ステップ2で

「課題を解決する」、ステップ3で「学習をまとめる」という流れで構成されていて、こちらの会社の教科書も、見開き左上に、必ず単元名や、本時のテーマが明記されているので、児童も、先生も、見通しを持つことができやすいと思います。

また、教科書自体がワークシート形式になっていて扱いやすく、まとめの書き込みが見開きの下の部分に統一されているので、これも大変使いやすいのではないかなと思います。

あと、発展的な内容として、4年生では、仲間とのよりよい関係づくりとしていじめを扱って、それから、5年では、熱中症、6年では、新型コロナウイルス、同じく6年では、スマホゲーム依存について掲載されています。

特に新型コロナウイルスについては、6年の54、55なのですが、新しい感染症の登場、正しい情報を得る、新しい感染症の問題点として、2ページにわたって詳しく取り上げている点が、他の会社と比べるとよいと思う点です。

同じく、6年の51ページでは、この上のところに「ウイルスの大きさ比べ」というのがあって、もしウイルスが小学生の大きさだったらば、小学生は地球の大きさになるということで、1,000万倍を目で見える形で示して、子どもが分かりやすくウイルスの大きさを想像することができるという内容になっています。

また、その下に「せきやくしゃみの飛沫はどこまで飛ぶの」というのが、ニュースでおなじみのスーパーコンピューターの「富岳」の写真と、それから、イラストで詳しく説明していて、その他にも、マスクの有効性として、せきエチケットを確認できる、5、6年の49ページなどもあります。

それと、3、4年生で、1日の生活の仕方と健康の単元で、生活のリズムとして、3、4年生の16ページで、「早寝早起き朝ご飯」というのがあります。ここで朝ご飯がなぜ大事なのかという4つの働きを示し、また、その下に生活のリズムをチェックできるチェック表があります。

同じように、43ページには睡眠のリズムと成長ホルモンの関係を表したグラフがあって、これらを使って、特に成長期には早寝早起きが大切だということの理由が分かりやすく説明されています。

もう1社が学研です。学研は、どの単元も「振り返る」「話し合う」「学びを活かす」の流れで構成されていて、1単位時間当たりおおむね4ページで、初めのページに学習の課題がページの下の方にここは示されています。

そして、左上に円で示された「学習の進め方」というのがあって、その進め方に沿って学習が進められていきます。

全体として文字数が少なく、行間も広いため、大変分かりやすく、イラストや写真が有効に使われています。

あと、単元の初めのページに「つなぐ」というところが書いてありまして、そこで他の教科との関連が示されています。

例えば、5、6年の7ページのところでは、「心の健康」というところで、右の下の方に「つなぐ」というのがあって、関係のある体育、家庭科、道徳などと、どういうところでこれと関連した学びをするのか、また、それと関連した仕事として、この教科書の中に、保健室の先生や、カウンセラーや、精神保健福

祉士などのお仕事に関係あるということが示されています。

あと、「話し合う」「意見を出し合う」という活動が大変多く設けられていて、例えば3、4年の10ページの健康について話し合う場面では、ここで、キャラクターが吹き出しで、「ぐっすり眠れた日は集中して勉強できたよ」とか、話し合いに関係あるというポイントを吹き出しが話すことで、子どもたちが考えやすいように工夫されています。

あと、単元末の「振り返る」「伝える」「つなぐ」というまとめのページでは、現在の自分の生活を振り返って、明日につなげて、未来の生活に結びつけることができる内容となっています。

発展的な内容の「もっと知りたい・調べたい」や、「保健の箱」などで、発展的な内容を学ぶことができます。

3、4年の24ページでは、先ほどの大修館書店と同じですが、1日の体温のリズムや早寝早起きの人と遅く寝て遅く起きる人の体温のリズムとか、また、43ページでは睡眠と成長ホルモンのグラフなどを示して、なぜ早寝早起きや睡眠が大切なのかをグラフを使って説明しています。

また、このことは中1の休養と健康でも学習するという事も書いています。

あと、大変いいなと思ったのは、5、6年の19ページからの心の健康、不安や悩みへの対処というところで、「保健の箱」として、困ったときの相談窓口が示されていることと、その後、今度は体をリラックスさせる運動や、あと、思春期は誰もが悩むものとして、その次は、「みんなどうしたかな」「悩みへの対処で考えてみよう」というふうに、このところを大変丁寧に扱っているところが、学研をずっと見ていく中で、心の健康について丁寧に扱っているという点は大変よかったなというふうに思いました。

以上、3社です。

教 育 長 ありがとうございます。
では、青木委員。

青 木 委 員 私の方は、保健については、体と心の健康ですね、それから、安全という意味で、けがの防止だとか、病気の防止、このようなものに関わる学びということで、これについて気づかせる、考えさせる、それから、展開ということで、自らの知恵として身につけさせる、この内容について注目して見てまいりました。

一応、私も3社、報告として挙げさせていただきます。

1社目が学研でございます。まず、3社とも、QRコードの配備はいいのですが、学研の場合は、例えば3、4年生の最初のページに、健康とSDGsとのつながり、このようなところの説明が細かく入っていたりする点。それから、学びを深めるための説明というのが、例えば3、4年生の6ページにあったかと思いますがこの辺の説明が丁寧にされている点。

それから、各項目ごとに学習の進め方があります。3、4年生でいうと8ページや12ページの右上、そのようなところに学習の進め方についての項目がコメ

ントされている点。

それから、気づいたのが、比較的教科書に記入する部分の多さというのが際立っていたという感じがあります。それから、各教科書の巻末になります。例えば5、6年生でいうと82ページ、83ページに行ったときに、「もっと知りたい」「調べたい」ということで、学習内容と個人個人の生活をつなげるといった形での展開に対しての工夫が見られたというところ。

また、同様に、巻末の資料ですが、3、4年生では「安全な生活のために」、5、6年生では「病気の予防のために」という形の内容が、丁寧かつ細かく工夫されているなというふう感じた次第です。

それと、候補として挙げさせていただいた3社について、特に注目したのは、私は不安や悩みへの対処法の部分です。

学研さんの場合は、この不安や悩みの対処法で、スクールカウンセラーのコメントですとか、悩みの対処例などというのが非常によい事例で挙げられていて、例えば5、6年の教科書の21、22ページといったようなところに書いてあって、ここがよくできているなというふうに思いました。

それから、2社目が大修館書店です。

こちらは、まず、保健を学ぶための動機づけというのが巻頭に説明されています。3、4年でいうと1ページから3ページ、ここが丁寧に説明されている点。

それから、5、6年生の5ページ、6ページについては、タブレットの活用法とか、学びの広げ方、それから深め方、これを巻頭の説明で丁寧にされている点が注目すべきところでした。

あと、各項目の初めに、著名人のインタビューが、子どもたちに、保健、あるいは健康、このようなものを考えさせるきっかけ作りになればというふうに思った次第です。

どの単元も、また、「課題をつかむ」「課題を解決する」「学習をまとめる」といった流れが一貫しておりまして、説明がしやすく、多くの先生方に見通しを持ちやすいというふう感じました。

同様に、見開きの左の上に、単元名やテーマが明記されていて、生徒も、教師も、見通しを持ちやすいなということです。

また、裏表紙になりますが、SDGsを明記している点が注目すべきところでした。

大修館書店は、5年生のところで、不安や悩みへの対処法の内容があるわけですが、これが非常に実践的だなというふう感じました。例えば、16ページから22ページにある体ほぐしの運動のことですとか、それから、もっと学びを広げよう、深めようというところの20から21ページの内容、ここがかなり充実しているなというふう感じまして、これは、この項目について最もよく書かれていたのではないかなと個人的に感じた次第です。

それから、3社目が光文書院です。こちらは、5、6年生の最初に、著名人のコメントが出て考えさせられる内容になっていて、同様に、「私と健康」というテーマでアスリートのメッセージがあり、子どもたちの考えを深めるきっかけづ

くりになるとよいなというところ。

それから、毎時間、学習の課題が示されておりまして、主体的な学びを促すという点で、うまく活用できるのではないかという点。

そして、イラストと写真の組み合わせで、かなり日常の場面というのをイメージしやすくしているなというふうに感じました。

例えば5、6年で言うと、10ページから11ページにある「心の発達に大切なこと」などというのは、うまい形で写真とイラストが組み合わせられているなということがありました。

また、巻末にはSDGsに関する説明がありました。これも前の1社と同様ですが、5年生の不安や悩みの対処法というところで、5、6年生の18、19ページに書かれているのですが、人との接し方を考えてみようという内容がかなり丁寧に書かれていて、ここも注目すべき点だなというふうに思った次第です。

以上、私としては、この3社を推薦させていただきます。

教 育 長 ありがとうございました。

それでは、長沼委員、お願いします。

長 沼 委 員 前回も国語の冒頭でも申し上げたとおり、4年前の採択から変わった点としては、一番大きな変化としては、「令和の日本型学校教育の構築をめざして」という中央教育審議会の答申が出されたことです。この内容をきちんと踏まえて、それを扱いやすいかどうかということで、教科書を見させていただきました。

具体的には、個別最適な学びと協働的な学びがしっかりできるかどうか、GIGAスクール構想への対応がスムーズにいくかどうか、また、学校における働き方改革の推進が行われてきていますので、先生方にとって教えやすいかどうか、それはイコール子どもたちにとって学びやすいかということになるかと思えます。

経験年数の少ない先生方にとっても教えやすいかどうかというのもポイントになろうかと思えます。

保健については、やはり自分たちの子どもたちの命、それは心身ともに健康な生活をしっかりと自分たちが主体的に考えるということができるかどうかというのがポイントになろうかと思えます。その観点で3つの会社を推薦したいと思えます。

1つは、現在使っている学研です。既にお2人の委員さんもお指摘があったこととは思いますが、改めて、私の方から申し上げますと、まず、教科書を開いていきますと、3、4年用、5、6年用、どちらも3ページのところに、右上にSDGsの紹介があって、それをめくると、さらに4ページで具体的に考えていく。それが保健の学習内容とどうつながっているのかというのが明確になっています。

これも、前回の国語の冒頭で申し上げたとおり、板橋区はSDGsを大変重視していますので、このようなことがきちんと保健のところにも書かれているというのはポイントが高いかなという印象です。

また、さらにページをめくっていきますと、3、4年も、5、6年も、6ペー

ジになりますが、「みんなで学びを深めよう」ということが書かれております。

これを見ますと具体的に自分たちで調べて、話し合うということ、説明をする、伝え合うというようなことが書かれていて、まさに協働的な学びをこの保健の授業でもしっかりと進めようという趣旨がきちんとここに書かれているというのはよろしいかなと思います。

あとは、これもご指摘がありました、書くスペースというのがこの出版社はとて多くて、子どもたちがしっかりと考えて、そして、ここに書き込むということによって、自分の考えをしっかりと整理し、恐らくこれは協働的な学びに結びつけるということがありますから、書いたことを他の児童と共有するということがやりやすい仕掛けがここに用意されているという意味で、とても優れているなという印象です。

あとは、特にこの4年間の変化ということでは、これもお2人からもご指摘があったとおり、新型コロナウイルスについての記述は、どの会社さんもありますが、学研さんは6年生の57ページの下のところ、少し分量は少ないのですが書かれています。

ということで、全体的に、現在もこれを使っていますが、非常に先生方にとっても使いやすい内容になっているかなという印象で、推したいと思います。

2つ目が、東京書籍を推薦したいと思います。

まず、東京書籍の一番のポイントは、表紙を見ると、ここに多様性のある子どもたちが登場するということです。

これは単に表紙だけではなくて、このキャラクターが全てこの教科書の中で様々な形で登場します。具体的に言えば、車椅子のお子さんはたくやさんというお子さんですし、恐らく外国にルーツがある、つながっているお子さんかなと思われる方はラウラさんという女子児童です。度々、教科書の中で登場するというところで、このような子どもたちの具体的なクラスの中にある多様性、そこから自分たちの健康な生活ということを結びつけているのだろう、そういう意図が伝わってきます。

この辺の手法は、他教科では教育出版さんが多用しているやり方なのですが、教育出版さんは保健がないので、東京書籍さんが他の社にはない特徴的な、ここに思いが込められているのだろうなという印象です。

この東京書籍さんの方は、板橋区の授業スタンダードに非常に適合しやすい構成になっております。

全ての単元で、1、「気づく・見つける」、2、「調べる・解決する」、3、「深める・伝える」、4で「まとめる・生かす」となっていて、これが板橋区の授業のスタンダードとして、各学校の先生方がやりやすいだろうと思います。

また、各章の冒頭のところには、必ず学習のステップというのでしょうか、どういう道筋で進んでいくのか。例えば5、6年の20ページ、これは2章ですが、階段状になっていまして、スタートから目標に向かって進んでいくということが明確になっていて、冒頭にこのスタイルが掲げられていますので、いわゆる見通しを持って取り組むことができる。これは先生方もそうですし、子どもた

ちもこれを見て、どのように学習が進んでいくのかというのが明確になるようになっていく。

ちなみに、3章の方の44ページを見ると、今度は階段状でなくて、少しまた違うんですね。目盛りになっていて進んでいくということで、全部同じではなくて、それぞれ章によって書きぶりが違うということも、工夫があつていいなと思います。

また、各章の、今見ていただいた冒頭のところにはSDGsマークが登場するというので、板橋区はSDGsに非常に力を入れていて、先進度は全国8位、都内では1位ということで、大変重視していますので、こういうところが章の冒頭にこのマークがしっかりと書かれているということも非常にポイントが高いなと思います。

あとは、新型コロナウイルスにつきましては、6年生の53ページ、下のところに書かれていて、これについても、かなりしっかりと読ませる内容になっていました。

このようなことから、大変分かりやすく全体がまとめられていて、少し情報量が多いかなということも高野委員がおっしゃっていましたが、それは感じますが、総合的に見て使いやすい、何しろ板橋区の授業スタンダードに適合しやすいという意味で、この社のものを推したいと思います。

最後は、大修館書店ですが、こちらは3、4年生用の2ページ、3ページに、なぜ保健を学ぶのかなということがきちんと書かれています。

これが4コマ漫画が2つ、見開きでありまして、これは結構重要なことで、一体なぜその教科を学ぶのかというのはどの教科にとっても大事なのですが、これが明確に書かれていて、子どもたちが漫画を読んで、先生と一緒に読みながらしっかりと保健を勉強するという、意味とか意義を感じ取ることができる内容になっているというのが優れていると思います。

それから、これもご指摘がありましたが、見通しを持って取り組むことができるということで、各単元、ステップ1が「課題をつかむ」、ステップ2が「課題を解決する」、ステップ3が「学習をまとめる」ということで、これは高野委員がおっしゃっていましたが、明確にこのステップを刻んでいくことによって、見通しを持って学習もできますし、課題解決もできるということで、板橋区の授業のスタンダードにも適合してくるだろうと思います。

また、各章の扉のページには、著名人が登場して、非常に分かりやすく、その方々のコメントも出てきて、見開きで見やすくなって、興味・関心を喚起するような仕掛けになっています。

また、タブレットの活用につきまして、GIGAスクール構想もございまして、3、4年生につきましては8ページ、5、6年生は6ページですが、ここでタブレットを使って楽しく学ぼうということが書かれていて、これもGIGAスクール構想の下で行う板橋区の授業にとっても非常にやりやすい説明になっていると思います。

あと、新型コロナウイルスにつきましては、高野委員がおっしゃってました

が、6年生の54、55ページで、ほぼ2ページ、正確に言うと1ページと右側が7割ぐらい使っていますけども、見開きでこうやって使っているのはこの社だけで、これもしっかりと読むと、きちんと新型コロナウイルスのことを理解できる内容になっています。

何しろ、この4年間の間に、新型コロナウイルスの感染症というのは、私たちも、子どもたちを含め、一番苦しめられたことですので、この保健の授業でしっかりと、保健だけではないと思いますけども、扱うというのはとても重要だと私は思うのですね。

ここに一番力を割いているのはこの大修館書店さんだということで、ポイントは高いと思います。

それから、子どもたちが学んでいく上で、それから、先生がこれを扱っていく上で、文字の量がちょうどいいのではないかと思うのですね。多過ぎず、少な過ぎず、そして、子どもたちが書く量というのも非常に手ごろかなと。

あまり多いと、子どもたちが書くことだけに時間を取られてしまうということもございますので、そうではなくて、ちょうどほどよい量かなというところが私としてはポイントが高いと思いましたので、以上、3社を推したいと思います。

教 育 長 ありがとうございます。

それでは、野田委員、お願いします。

野 田 委 員 私の方からは、前回に引き続きまして、現在使われている教科書並びに教科用図書調査委員会の調査研究報告書、学校調査研究報告書、区民アンケートを事前にいただきまして、それらを参考にして、また、保護者の立場から、家庭での活用について、家庭学習や自学自習の教材として、使い方も視野に入れて各社の教科書を拝見させていただきました。

保健につきましては、これまでの委員の皆様がコメントされました内容と同感で、非常によくできている印象を受けております。

それぞれの会社ともに、板橋区授業スタンダードに沿った流れが意識されている。特に考えるとということは、全て統一されてあったのかなと思いました。

また、ワークシートで書くような内容を、直接、教科書に書き込めるようになっている工夫などがされていること。また、近年の保健的な問題となっている課題について、写真などで身近な例を示して説明されているなどといった印象を持ちました。

そのような観点の基に、今回の審査としては、私の方は板橋区授業スタンダードに沿った流れになっているかということ、單元ごとに学習の見通しが立てやすくなっているか、あと、授業時間内で取り扱うことができる分量になっているかということ、特に教科書全体の構成についてを主なポイントとしました。

今回の採択では、私の方からは、大修館書店、学研の順に推薦させていただきたいと思います。

学研さんの方につきましては、これまでのコメントもあるように、私も同じよ

うな印象を受けていて、この大修館書店と学研の教科書については非常に似たような構成になっていて、書き込むワークスペースなど、あと、このトレンドに沿った情報などが適切に配置されているということが印象を持っています。

大修館書店を第一候補に挙げた理由ですが、何よりもこの教科書の構成が非常にいいというところで、ステップごとに「課題をつかむ」「解決する」「まとめる」といった流れで、板橋区授業スタンダードに沿った形で授業を進めやすい内容になっているという印象があって、他社と比較して、優れた構成になっていると。

学習の見通しも、教員も、子どもも立てやすいのではないかとということと、保健の学習で求められている課題解決的な学習が進みやすいというところを読み取れました。

また、近年の保健的な問題となっている、精神的不安、けが、感染症。特に感染症については、新型コロナウイルス感染症についての情報が詳しく書いてあることと、私たちにとっては、この大きな経験を今後にも生かせるようにしていくために、今後のこの新しい感染症の問題点というところは、このCOVIDに限らず、今後起こり得る可能性のある感染症に対応し得るような内容で、このような基礎をしっかりと保健で学ぶというのは、私の方も非常に重要であると捉えております。

また、生活習慣病、飲酒、喫煙、薬物、気候変動や自然災害、それぞれの課題についても、量的にもバランスよく取り上げられているというところは確認されました。

そして、この教科書中に書き込めるワークスペースについても、適切な分量で、授業内で扱いやすいのではないかと印象を受けております。

また、各学年において、タブレット端末を活用する方法が分かりやすく説明されているところ、これは板橋区で推進しているICTの活用によって自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えに触れたりする機会を促すときに非常に適していると考えました。

以上のことから、保健を通じて学んだことを実生活で意識しやすい内容である。また、家庭でも、保護者と子どもとで話し合いをする中で、このようなワークスペースなどに書き込まれた子どもの考えなどを保護者が見て子どもに声をかけるなど、そのような活用もしやすいのではないかと理由から、大修館書店を推薦したいと思います。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

それでは、私の方からお話をさせていただきたいと思います。

私の方も3社を見てきたのですが、まず、大修館書店については、もう本当に皆さんがおっしゃるように、ステップごとに「課題をつかもう」「課題解決」「調べよう」「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」、そして「まとめ」と、板橋区授業スタンダードに沿っているなというふうに思っています。

また、冒頭の3、4年生の方では、巻頭に、身の回りのところからの「保健を探そう」の次の2ページ、3ページで、なぜ保健を学ぶのかというファーストステップがきっちりと書かれてあるということが、保健の授業というのがないがしろにされがちな部分でありながら、子どもたちにとっての必要性というのをきちんと述べているなというふうに思っています。

それから、3、4年生の8ページ、あるいは5、6年生の6ページには、タブレットを使って楽しく学ぼうということで、これからのGIGAスクール時代においては欠かすことのできないタブレットの使い方も、教科書に沿ってきちんと書かれてあるなというふうに思います。

それから、「学習単元の導入」「課題をつかもう」のところでは、児童に身近な話題を多く用いて、児童自らが課題解決学習に取り組みやすい内容となっているなというふうに思っています。

それから、各章の最後に設定した「学習を振り返ってみよう」。これは3、4年の24ページですが、基本的に、最後にきちんと自分の考えを書くということを入れてあるというところで、内容的にも、知識・技能だけでなく、思考力や判断力といったところも、学習したことを現在や将来の生活に活かすことができるように工夫されているなというふうに思っています。

それから、3、4年生の教科書では、16ページ、17ページ。

資料の「もっと学びを広げよう！深めよう」という16、17では、「早寝早起き朝ご飯」、あるいは、「体を動かすチャンスはいっぱい」、スマートフォン、タブレット、生活リズム、このような本当に子どもの身近な話題が出ています。

22、23では、手の洗い方やスマートフォンとタブレット、目の健康、学校での健康を守る活動といったような、あるいは空気の入替えの仕方といったような、非常に重要な部分が資料として出ているところがいいなというふうに思います。

それから、36ページ、37ページでは、「もっと学びを広げよう」ということで、なかなか扱いにくい月経の仕組み等が出てきたり、新しい命の誕生、10カ月、赤ちゃんが入っているんだよということ。それから、37ページの方には、「みんなちがって、みんないいんだ」という金子みすずさんの詩を用いて、個性なり、人柄なり、人間性なり、個人差があるんだということをまとめているところがキーということと、そのようなことで悩んでいる場合にはどこに相談するのかということがきちんと明記されているところもいいなというふうに思いました。

それから、5、6年生のところでは、56ページ、57ページですけども、これ、ほとんどの教科書は、成人病、生活習慣病は心臓病や脳卒中から入っているんですけども、大修館書店は、子どもたちにとって身近な虫歯や歯周病の学習から入って、学習内容の構成を見直して、まずここから入って、その次に、脳卒中や心臓病に入っているという工夫も、内容構成上、工夫されているなというふうに思いました。

それから、先ほどの学びを広げる、深める資料が、3、4年生では20点、5、6年生は31点掲載されていて、資料として非常に読みごたえがあるというふう

に思っています。

それから、「体育の窓」というコラムで、保健と体育を関連させた内容にしてありまして、保健体育ということですから、そこは工夫がされているなというふうに思います。

それから、5年生の19ページ、20ページ。これも、どの先生も、どの委員もおっしゃっていたように、不安や悩みへの対処について、非常に具体的に書いてあって、あまり字も小さくなく過ぎて、絵と一緒に読むことができるかなというふうに、生活に活かすことを想定した内容であるなというふうに思います。

それから、1つ面白かったのが、4年生の31ページで、これはシャイな子のためでもあるんでしょうが、体に現れる変化のところで、体育着を着せて着衣のまま、イラストを使って、子どもたちの体の変化というのを表しています。これは、他のところはそのまま絵を表しているのですが、こういうところも少し配慮があるのかなというふうに思いました。

それから、これも色々な方々がおっしゃっているように、6年の54、55ページでは、コロナウイルスの話題、新しい感染症の話題がきちんと書かれているなど。

それから、各単元の最初の著名人のインタビューが非常に興味深いなというふうに思いました。

それから、2つ目は光文書院です。

光文書院、学習課題がしっかりと明記されているのと、振り返りと連動しているというところが非常に興味深い。板橋区授業スタンダードともフィットしているなというふうに思います。

それから、3、4年生の15ページですが、ここも「広げよう」「深めよう」ということで、スマートフォンの使い方と生活のリズムに言及をしていて、今、非常に問題が膨らんでいるところだけに、子どもたちに実際にそのメリットとデメリットといったものをしっかりと学ばせる、いい題材ではないかなというふうに思いました。

単元全体の復習と振り返りもきちんとなされています。

それから、3、4年生の33ページ、「広げよう」「深めよう」のところで、性についての悩みの展開がとても分かりやすく書かれています。

「性について」というところ、これも、今、大きな問題になっていて、連絡場所も書いてありますので、いい内容になっているのではないかと思います。

それから、39ページには、睡眠と成長ホルモンが、科学的な展開という形で書いてありますので、ここも先ほど言ったように、早寝早起きの大事さ、睡眠の重要さというのが子どもたちにも分かるのではないかなというふうに思っています。

5、6年の方については、「人との接し方について考えてみよう」ということで、18、19ページ。ここも気持ちを大切にされたコミュニケーションということで、自分と人との距離感等を含めて、現実的に、非常に身近な話題を挙げて書かれているのではないかな、具体的でストレスの対応について書かれてあるなと思います。

それから、癌について、「癌のことを知ろう」ということで3分の2ページほど詳しく説明していて、結構、癌については、他のところは大体半ページぐらいなのですが、ここの光文書院さんについては、5、6年生の52ページのところで、3分の1ページほどを使って書いているというところでございます。

最後は学研です。学研については、全体的に書くスペースが多くて、大体の初め、左ページの上の方に学習の進め方が示されています。

3、4年生は、10ページに生活のバイオリズムと太陽の関係等が書かれていて、本当に書くところが非常に多いので、書くことに集中してしまうかなというぐらいに、非常にワークスペースが多くなっているところですよ。

単元全体の復習と振り返りもきちんとできています。

それから、30、31ページ。「身長について、次のような心配をしている友達があります。あなたなら何と言ってあげますか」の問いについては、個人差を学ぶには適しているなというふうに思います。

「身長について次のように心配している友達があります。あなたなら何と言ってあげますか」というような問いかけはとても重要な問いかけではないかというふうに思います。

43ページ。睡眠と成長ホルモンのところは科学的な展開がきちんと書かれてあって、読みごたえがあるのではないかというふうに思います。

それから、47ページからは、「安全な生活のために」ということで、①と②が短く、分かりやすく表現されている。これもふだんの生活のために非常に効果的な内容ではないかというふうに思っています。

5、6年生の方は、同じく20ページ。こども、皆さんがおっしゃっているように、リラックスする方法が書かれているということと、21ページからは、思春期のまとめを具体例を挙げて分かりやすく解説して、いじめにも触れているというところが分かりやすい内容ではないかなというふうに思っています。

癌についても言及していますし、資料的な内容は各章の最後にまとめてあって、大変読みやすい内容になっているのではないかというふうに思っています。

そういう中で、私としては、大修館が学びやすい内容になっているのではないかなというふうに思っています。

以上です。

今、ご意見を伺っていて、5名全員が押しているのが大修館書店、4名が学研ということですが、大修館書店が全員の委員の方からのご推薦があるということで、「保健」については、大修館書店を仮採択することにご異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「保健」については、大修館書店を仮採択することといたします。次に、「英語」のご審議に入ります。指導室長から説明願います。

指導室長 英語につきましては、6社でございます。東京書籍、開隆堂出版、三省堂、教育出版、光村図書出版、新興出版社啓林館から採択をお願いいたします。

教育長 それでは、審議に入ります。質疑、意見等ございましたらご意見ください。では、高野委員、どうぞ。

高野委員 英語については、2社、大変どの会社もすばらしくて、なかなか決められなかったのですが、書くことと、それから、アクティビティという、その両方に特徴のある2社を私の方からは推薦したいと思います。

まず、1社目が東京書籍です。東京書籍はユニットの学習の流れが、単元の内容に慣れ親しむ「Starting out」、また、学習内容の定着を図る「Your turn」、コミュニケーションを楽しむ「Enjoy Communication」、世界の文化を知る「Over the Horizon」となっていて、単元が1単位時間のめあてが明確になっており、各単元の最後は世界に視点を置いためあてになっています。

また、それまでに学習してきた表現などを使いながら、先生や友達と身近な話題についてやり取りする「Small Talk」というのがありますが、それが1単位時間の中盤に設定されているので、それまでに学習したことを生かして話し合うことができる内容になっています。

また、その「Small Talk」については、この別冊の「My Picture Dictionary」の表紙の裏にも日常生活で使える表現とか、また、「英語を使って会話を広げよう」というところで、使うこと、確認することができるようになっていきます。

あと、スピーチやプレゼンテーションを作成する準備過程を書き留めながら進めていくことができるので、児童がスモールステップで考えながら学習を進めることができます。

設問やアクティビティの指示が日本語で分かりやすく示されている点もいいと思います。

あと、ほぼ全てのページに書き込む欄があり、書くことを意識した内容となっています。

6年の2、3ページのところで、名前を書くこと、それから、単語の書き方など、文の書き方などのポイントが示されていて、また、その他、複数の文章を書かせるときは例文を示すなど、書くことの活動を段階的に進めることができるという教科書です。

中学校の先生方から、小学生でもう少し書く力をつけて中学に進学してほしいという声があるということを知っています。5年生から、段階的に書くことに少しずつ取り組んで慣れていくことが必要なのではないかなと思います。

6年のユニット6、60ページ「Save the Animal」という学習は、世界が抱える生き物が直面する問題を調べたり、身近でできることを話し合って理解を深めていく単元です。

この単元を進んでいくと、70ページのところで、「始めよう、地球のためにできること」、「Check Your Step 2」というところがあって、ここでは、地球を守るために自分ができることについて、隣のページで情報をマッピングを使って整理して、友達や先生に向けて最終的には発表するという発展的な内容の項目があります。

あと、東京書籍でいいなと思うのは、この別冊の「My Picture Dictionary」が大変いいなと思います。自分の伝えたい言葉を探するときや4線上に正しく文字を書き写すときなどに役立てることができます。

内容も使いやすく、使用するページの指示が教科書からの確に示されているので、活用しやすくなっています。

あと、この「My Picture Dictionary」では、5年生、6年生で学習した内容がユニットごとに確認できる「主な表現を確認しよう」という欄が136ページにあります。

また、42ページに「CAN-DOの木」というのがあるのですが、ここで、できることに色をつけて木を完成するのですが、小学校の学びを振り返ることができます。

あと、その他にも中学校へ向けた内容としては、6年の94ページに、「Going to junior high School」というところで、中学生になったらどのようなことができるようになるのかな、どのように英語をこれから学んでいくのかなというようなこと、小・中の接続につながるページがあります。

それから、もう1社は、開隆堂出版です。

開隆堂出版は、4ページ、5ページの文章の使い方というところで、1時間目からレッスンの終わりまでが、その時間の活動について詳しく説明していて、レッスン全体の流れも分かりやすくなっています。

また、単元の初めに、単元のゴールや学習の流れが明確に書かれているので分かりやすくなっています。

単元の導入では、簡単なゲームやアクティビティなどを行い、話すことを重視した内容になっています。

Let's Playの内容がゲーム的要素を盛り込んでいるために、学習活動の意欲を引き出す工夫がされています。

例えば5年のLesson 3、「夢をかなえる時間割りを作ろう」というところでは、35ページの「Let's Play 1」では、教科名の言い方に慣れるために「Pointing Game」をしましょう。

それから、36ページの「Let's Play 2」では、教科の言い方に慣れるために、「Missing Game」をしましょう、そして、隠されたカードに書かれた教科が好きかどうかを見ましょう。

それから、37ページで、「Let's Play 3」では、何の教科が好きかを尋ねて、何人かが同時に答えるステレオゲームをしましょうなどと、導入のところに、「Let's Play」の内容にゲーム的な要素を盛り込んでいま

す。

それから、教科書全体で、場面設定が日本語で詳しく書かれているために、子どもたちがイメージを持ちやすく、見通しを持つことができるようになっていきます。

少し戻ってしまうのですが、5年の8ページ、9ページのところには、「3、4年で学習したこと」というところがあって、3、4年の外国語活動で学んだこととのつながりを意識した構成になって、そして、10、11ページには授業で使っている「Classroom English」で20の表現が掲載されています。

「Our World」という世界の挨拶や、朝ご飯、世界遺産など、世界で活躍している人を紹介するページがあります。

また、単元の終わりに、「Around The World」というコラムと「Story Time」という読み物が掲載されていて、例えば6年の23ページのところでは、短い読み物の後に関連するSDGsの目標と、それに対する日本の取組が書かれています。

あとは、別冊の「wordbook」というのがありますが、こちらはコミュニケーションに必要な英語がカテゴリーごとにまとめられていて、5年・6年それぞれに1冊ずつあります。

ジャンルごとにまとめられているので、ジャンルから英語を探したり、あと、後ろにある索引から、日本語から英語を調べるようになってこの「wordbook」が各学年に1冊ついています。

以上、私は書くことに力を入れている、書く力がつくのではないかと思う東京書籍と、それから、楽しくゲームをしながら英語を学べる、話すことを中心に考え、進められるのではないかなという理由で、開隆堂出版、この2社を推薦したいと思います。

教 育 長 ありがとうございます。
 それでは、青木委員、お願いします。

青 木 委 員 私、英語の教科書、これも会社数が多いのですが、ポイントとしては、中学の英語につながるよという意味で、教科書の、まず使い方が分かりやすく説明されていることが1点。

それから、英語の4技能の中で、小学校の5、6年は楽しみながら学べるという内容が特に重要なと思いました。

4技能の中では、コミュニケーションというのがやはり重要だというふうに感じていて、主に単元の中で、リスニング、スピーキングといったようなところが、子どもたちに興味・関心を持てるような内容、この辺を中心に、各社の教科書を見させていただきました。

全体から言いますと、各社ともに特徴を出していただいて、非常にどれも甲乙つけがたいというのが全体的な感想なのですが、その中から3社、推させていた

できました。

1社目が教育出版です。これはA4の変形型で、コンパクトな作りになっているというのがあります。

それと、他の会社には、いわゆる別冊wordbook等々がついているのですが、ここはそのようなものをつけていない状態で、それぞれ、5年は5年、6年は6年の1冊の中にぎゅっと情報量を詰め込んでいます。

これは考え方なのですが、別冊がついているということは、情報量が多くなって、また、使いやすいというところ、調べやすいというところもあるかもしれませんが、教科書を、ランドセルの中に入れて持ち帰ったり、持ってきたりというような形でやっているところでは、1冊にまとまっている方が忘れ物も少ないという点では、配慮がなされているのかなというの少し思った次第です。

それから、教育出版では、5年生の4ページにある「Classroom English」ですね。これは学校生活の中で自然に英語が使えるようなイメージを持って、そのようなところの工夫が、まず学校の中で英語を使っていこうよというイメージが持って、配慮がされているなというふうに思いました。

それから、もう1つ、注目が巻末がワークシートになっています。これは楽しみながら学べる作りになっているなということを思いまして、特に注目する、下の6年生の「My Bookを作ろう」。これは中学でしてみたいことというのもありましたが、この辺の作りというか、十分に工夫されているなと感じた次第です。

ただ、単語の一覧も出ているのですが、索引はなかったというのが1つございます。

それから、2社目が東京書籍です。こちらは高野委員からのコメントにもあったかと思うのですが、やはり注目したのはQRコードです。

かなりQRコードが充実しているところなのですが、実際には聞けていないものですから、ここの評価は少し難しいところではありますが、やはり最初に申し上げたとおり、リスニングが重要というところでは、このQRコードが充実していて、音声、あるいはそれに関連する絵や動画等が出てくるというのは、非常に興味・関心を持ちやすいなというところがあるかと思えます。

QRコードを活用して、1人、あるいは、いわゆる自宅でも発音を確認して学べるような作りになっているというのが特徴的だというふうに思っています。

それから、こちらは「My Picture Dictionary」が別冊で付いています。

かなり私の感触では、会話を意識した項目別に整理されているなというふうに思いました。重要な項目別に整理されているという感覚でございます。

それから、面白いなと思ったのは、レッスン5の「行きたい国の魅力を伝えよう」、これ6年生の60ページから67ページがレッスン5になっていますが、この内容はかなり英語を使う意味の再確認も含めて、工夫された作りになっていて、写真なんかもよくきれいに展開されているな、そして、その後にある68ページ、69ページの世界遺産とのつながりというの、流れとしていいのかなと

いうふうに思った次第です。

それから、5年生では、38、39ページの「お互いの魅力再発見」というのがあります。これは、それぞれ相手のことを英語でうまくコミュニケーションで伝えるという内容になっていますが、これは非常に工夫された内容、それから、相互のコミュニケーションを円滑化させるといったような意味合いも含めて、非常に工夫された内容だなというふうに思った次第です。

「My Picture Dictionary」、スクリーン、それから整理されているという意味ではいいのですが、索引をつけていただけると大変いいのですが、索引がかなりぎゅっと詰まった、若干、細かい感じがしたというのが1つです。

それから、もう1社が開隆堂出版です。こちらは学年ごとにwordbookが別冊で付いていて、多様な項目別に整理されていて、それぞれ作品も付いているという状況。

それから、教科書のテキストの方は、QRコードが大変充実しているという状況です。

また、3、4年の外国語活動で学んだことから、つながりや展開というのが、5年生の8ページ、9ページで説明をされていて、これもきっかけというか、3年生からの外国語活動とのつながりというところをきちっと説明されているのは大切なのかなというふうに思いました。

それから、5年生の10ページから11ページにある「授業で使える20の表現」、これも、先ほどと同様で、クラスの中でまず使っていこうというような形ですね。これは学校生活の中での活用を促すといった点で非常に工夫されているというふうに思いました。

また、5年生の34ページから41ページのレッスン3ですね。「将来の夢をかなえる時間割りを作ろう」。このテーマ設定も非常にいいなというふうに思いました。

中身のこの時間割りを作ろうというプロセスも工夫されていて、興味・関心をさらに広げられるようなものがありました。

あと、開隆堂出版さんで1つ注目すべき点は、5年生の125ページ。PCのキーボード表がついています。これは情報教育というところをかなり意識した作りになっているのかなというところ。

それから、6年生のレッスン7ですかね、「夢を語り合おう」というのも、やっぱりそれぞれの夢をコミュニケーションによって語り合うという形での内容が充実している、工夫がなされているというようなところを含めて、教科書の内容、情報量では、開隆堂出版が、実は、今、3社の中で一番充実はしているなというふうに思いました。QRコードも実施している点から含めると、中身としては一番情報量が多いのかなというふうに思った次第です。

以上、私からのコメントとします。

教 育 長 ありがとうございます。

それでは、長沼委員お願いします。

長沼委員 英語につきましては、2つ視点があると思ひまして、1つは3、4年生の外国語活動と中学校の教科「英語」とのちょうど間にあるということ、その接続がうまくいくかというのは非常にポイントかなというふうに思ひます。

とりわけ板橋区は小中一貫ということを打ち出して、学びのエリアの中で、先生方が連携、協働しながら、各教科も、色々な接続を考えているところですので、その視点は大きいポイントとして持っておきたいというのが1点です。

2つ目は、英語ですので、いわゆる言語習得ということになりますので、板橋区は読み解く力を重視するという教育を行っていて、それは、当然、日本語だけじゃなくて、英語で読み解いていくということも必要になりますので、スキルの中でも、読み解く力というものもしっかりと養うことができる教科書を選んだ方がいいだろうという、この2つの視点で見えてきました。

どの会社も、とてもよくできていて、工夫されていて、いいなと思ひましたが、2社を推したいと思ひます。

1つは、高野委員と同じですが、東京書籍さんのものになります。

こちらは、特徴としては、書くスペースがとても多くて、スキルのうち書くことに大変重きを置いているというのが見てとれます。ほとんど全ページに書くページが用意されています。

このことによって、子どもたちが考えて、主体的にこの英語に取り組んでいくということが出来る仕掛けが用意されていると思ひます。

それから、見通しを持って学ぶ、あるいは板橋区の授業スタンダードという視点で考えたときに、この東京書籍さんは4つのテーマですね。「Starting out」、それから、「Your Turn」、「Enjoy Communication」が含まれているということで、この4つのステップをどの単元も同じように進めていくということで、先生も教えやすいのではないかなと思ひます。板橋区の授業スタンダードにも適合していると思ひます。

興味深いのは、単元の各ページの左上にも、今、4つの項目の言葉が出てくるのですが、見開きの右上の方にも、いわゆるタグとして、今どれをやっているのかというのが明確になるようになっていて、非常に工夫されていて、配慮されているなという、そういう印象を持ちました。

それから、どの単元もそうなのですが、ステップ1、2。いわゆるホップ、ステップ、ジャンプという発想でいいと思うのですが、少しずつスモールステップで進めていく、そういう工夫がなされているので、子どもにとっても非常に取っ付きやすい内容かなと、これはどの単元も共通して言えると思ひます。

書くスペースが多いという指摘をさせていただきましたが、全体的に見ると、ぱっと見て、見やすいというか、ごちゃごちゃしてないというんでしょうかね、それがこの東京書籍の特徴かなと思ひます。

割と東京書籍さん、他の教科だと、ぎゅっと情報を盛り込んできているのですが、英語は意外とそうではなくて、シンプルな作りで、しっかりと書いて、覚

えて、英語を習得させようというコンセプトが見てとれますね。非常に使いやすいと思います、先生方にとっても。若い先生にとってもそうではないかなという印象ですね。

これは高野委員からもご指摘ありましたが、「My Picture Dictionary」、これがよくできていて、2年分しっかり使いながら、書きながら、覚えていくことができます。2年間使うことで、5年生で使ったことをさらに6年生になってもこれを学校で使うということが、接続があって、2年分しっかりと、学年を超えて学習内容がしっかりと把握できるというよさも、この2年間共通のディクショナリーとしてのよさかなと思います。

このディクショナリーの冒頭のところでは、英語を使って会話を広げようということで、教科書本体の方はややもすると書くことが重視されていますが、ここを見るとしっかりと会話ですとか、聞くとか、話すということも丁寧に学習しようということがしっかりと学習できますので、これも優れている点だなと思っています。

もう1社は開隆堂出版です。これも同じになるのですが、こちらは、特徴としては、書くこともさることながら、話すこと、あるいは聞くことをかなり重視した作りになっていると思いました。

書くスペースはそれほど、東京書籍さんに比べると多くはないのですが、丁寧に聞いて、あるいは話すということがやりやすい仕掛けになっていると思いました。

これもご指摘ありましたが、例えば、5年生の最初のところで、8ページ、9ページになりますが、「3、4年で学習したこと」という振り返りができるようになっています。

これは先ほど私が申し上げたように、3、4年生で行う外国語活動を意識して、そこからどのように5、6年の教科、英語につなげていくかということが明確になっていて、これを扱うことによって、いわゆる3、4年から5、6年への接続がうまくできるようになっているという道筋が表示されています。こういうところの配慮がいいなと思いました。

それから、各単元で、様々なシチュエーションが出てくるわけですが、冒頭で、見開きでいうと左上になるのですが、必ずこれが日本語でどういう場面なのかというのがしっかりと書かれていて、ぱっと英語で始まるのではなくて、そこはまず日本語で説明があって、その上で英語の単語が出てきたりとか、お話が出てきたりということで、この辺の取組みやすさというのもしっかりと配慮されているなという印象です。

それから、教科書の最後のところには「CAN-DOチェック」というのがありまして、ここで各レッスンで学ぶこと、それぞれ4つの技能がしっかりと定着できたかどうかというのを、ページを広げることができて、全体、これを見るだけでも、まさに個別最適な学びにつながるのですが、子どもたちが自分でチェックができて、どこができたのか、どこが足りないのかというのがしっかりと分かるようになっています。

先生もこれを見ながら教えやすいかなということ、こういうところの工夫もよくできているなという印象を持ちました。

2社プラス、1つだけ申し上げると、光村図書出版さんの冒頭の5年で言うと8、9ページ、6年も同じなのですが、ここを開くと、わざわざ広げる形で意図的に強調されているのですが、ここで5年生でできるようになることというのが明確に書かれていて、いわゆる4技能プラスで、実質5技能なのですが、何を学ぶのか、どのような力をつけるかというのが明確になっていて、光村図書出版さんのここはすばらしいと思いました。他の社にはないのですね。ここまでしっかりと、しかも冒頭にどのような力をつけるのかというのを掲げたのは、ここはポイントが高かったのですが、一応、指摘をしておきたいと思います。

ということで、2社なのですが、書くことを重視して、中学への接続に重きを置かなければ東京書籍さん。いやいや、小学校はそれもいいが、話したり、伝えたり、聞いたりというコミュニケーションの方をより重視するのであれば開隆堂出版さんのようなのかなと、このような捉え方をしました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。
 それでは、野田委員、お願いします。

野 田 委 員 私の方からは、英語について、審査の観点としましては、板橋区授業スタンダードに沿った流れで構成されているかということと、やはり單元ごとに学習の見通しが立てやすいかということ、それと、委員の皆様からのお話もありますが、3、4年生でやってきた外国語活動に触れてきているというところをベースにして、この外国語活動では、アルファベットの読みや発音などを活用してきたというところがあって、また、中学への授業の接続を意識した内容についても大切であると思っております。

また、英語については非常に重要な、今後、将来に向けても重要な言語となってきますので、教科書を読むことにより自学自習ができること、教員の授業の進めやすさなどを主なポイントとしていきました。

これまで様々な意見をお聞きしている内容と私も同じような、よいポイントについて印象を受けておまして、全体的に見て、各社の印象ですが、東京書籍さんは書くこと、開隆堂出版さんは、話すこと、三省堂さんは、全体的にバランスよく網羅されていて、教育出版さんは、話すことや聞くこと、光村図書出版さんは、国語との比較、啓林館さんは、コミュニケーションに必要なことについて、このようところが各社特徴的に取り上げられて、内容を構成されているように感じました。

私の方からは、今後の教科書の活用、そして特にこの3、4年生、そして中学校への接続というところを考えますと、現場の意見からもありますように、書くことに、重視、重きを置いて、これからの英語としての勉強ということに向けて、

東京書籍さんを推薦したいと思います。

内容につきましても、これまで挙げられていますように、板橋区授業スタンダードに沿った流れ、4つのステップに分けられているところ。表記についても、非常に分かりやすく説明がされていた、レイアウト等されていますので、学習のプロセスが、教員にとっても、児童にとっても分かりやすく、そして見やすくなっていて、見通しが立てやすい構成になっていると感じられました。

3、4年生の復習になるような内容が、5年生の教科書のユニット1に盛り込まれていて、英語学習などへの導入にも配慮がされているように感じました。

全ての単元でユニット内の見開きごとに、振り返りをするようになっていて、細かく振り返ることによって、つまづきを防止できるような工夫がされているように見受けられます。

また、例えば5年生の18ページのユニット2の最初に振ってあるのですが、それぞれのユニットの始まる部分、左ページの右上、少し小さいですけど、これには「道徳」と書いてあって、他教科との連携を意識されていて、色々な場面で英語的に考えるというような意識づけにもなるのではないかとこのところが非常によい点だと思いました。

また、書くことについては、やはり最初から習慣づけというところから入っていくことがレベルが高いように感じる意見もあるかもしれませんが、もう初めから必然的に書いていくというところを意識づけるには、ワークシートのようなものが盛り込まれていて、書き込みながら考えていくという習慣づけをしていくに当たって、非常にいい構成になっているのではないかと感じました。

そして、その中学校での学びへのつながりということ意識していきますと、やはり小学校の段階で書くことに十分慣れていくことは大変有利になると考えます。

実際、これまで英語に触れていくというところから入っていきましたが、教科として学んでいくに当たって、やはり、実際、英語という語学を学んでいくという認識が必要になっていくと思いますので、ここで書くことに重点を置いた内容ということは必要になってくるのではないかと考えております。

また、全体的な構成、そして、この別冊付録やデジタルコンテンツなどにつきましても、自学自習や復習など、個人での教科書の活用、家庭での教科書の活用がしやすい形になっているところがポイントとなっております。また、非常に見やすいイラストや活字、文字量、このようなものが比較的適切であって、教科書を読んで、見やすいような形が非常によいのではないかとこのような観点から評価させていただきました。

教 育 長 ありがとうございました。

それでは、私の方から、私も3社、どうかなと思ったのですが。

まずは東京書籍ですが、作り方が本当にパターン化、どこの教科書もみんなそのようなのですが、分かりやすさというところでは、「Starting out」、例えば、5年生の8ページ、9ページを見ていただきたいのですが、音声と

映像を通じて単元の学習内容に慣れ親しもうということを書かれていて、その後10ページ、11ページ「Your turn」で学習内容の定着を図るために友達と会話をしたりして学習内容の定着を図る。

それから、「Enjoy Communication」、コミュニケーションを楽しむ、ここがすごく重要だと思うのですが、英語を使う実際の場면을想像して、会話や発表を楽しむ。そして、最後に、「Over the Horizon」ということで、14ページ、15ページで、海外の映像などから、言葉の背景である文化を知っていくというような、そのような流れが全部統一されていて分かりやすいなというふうに思いました。

それから、5年生は、身近なことから日本の紹介へと視野を広げていきますが、6年生では、世界のことや世界と日本のつながりについて考えた後、中学校へ接続していくというような流れだと思っています。

先ほど長沼委員がおっしゃったように、5、6年の英語科、外国語科の重要性は、3、4年とのつながり、そして、5、6年への接続ということになると思いますが、様々な児童が興味・関心を自然と抱くようなトピックを精選して掲載されているというふうに思います。

6年生の12ページ、あるいは、60ページや70ページ、先ほど高野委員もおっしゃったように、このような流れはSDGsを視野に入れた活動が多く用意されているなというふうに思っています。

また、先ほど申しましたように、見通しを持って単元の学習を行うために、登場人物の質問に答える形で、自分が伝えたいことを考える「Your Plan」を新設してあり、「Small Step」の単元構成を実現してあるなというふうに思います。

それから、これもどなたもおっしゃっているように、書くということをこの東京書籍の教科書は非常に重視していて、中学校の先生方から、やはりもう少し書くことをやってほしいという、力を入れてほしいという願いにも沿っているのかなというふうに思います。

5年生では、文字の形や名前から文字の音への慣れ親しみ、6年生では、文字に慣れ親しんで、最後は文を読むことにチャレンジしているのではないかと考えています。

「My Picture Dictionary」については、もう出ているように、とてもいいなというふうに思っていますが、本当にさっき青木委員がおっしゃったように、何かぎっしり詰まっているので、作品とかは少し小さいのですが、この辺をうまく使いながら進めていけると英語の力が伸びていくのではないかとというふうに思っています。写真やイラストも大きくて分かりやすいなというふうに思います。

2つ目は教育出版です。同じように導入のところで見ていきたいのですが、5年生の11ページ、「Let's Watch」という形で、めあてを出しながら映像を見るというところ、それから、ゴールが右側の方にもう既に書いてあって、めあてと、それから、狙い、ゴールというのが明らかに出ています。

それから、「Let's listen」、「first」「second」がありますが、16ページでアクティビティがここに加わってきます。

そして、「World of Smile」、外国の状況をここで加えながら進めていって、「Final Activity」に持っていっているということ、流れとしてはこの流れがパターン化しているというようなどころだと思えます。

「We can」と同様で、映像を見て概要を捉え、聞いて慣れ親しむ活動から徐々に発信活動へつながる流れになっているのではないかなと思っています。

見開き2ページで一まとまりを構成していて、1見開き目で映像を見ながらめあてを意識させて、2見開き目で児童単独の活動をして、3から4の見開き目で他の児童との協働的な学習を実施し、5見開き目で復習と振り返りを行う。この流れはスタンダードにも沿っているのではないかなと思っています。

映像を見る、歌を歌う、口慣らし、チャント、考える、聞く、やり取り、読む、書く、やり取りを発表による発信活動、音声と文字のつながりを学ぶ、復習、振り返りといったようなパターンがなされているというふうに思っています。

それと、面白いなと思ったのは、この教育出版は、例えば5年生の86ページで、道徳の授業の題材である「橋の上のおおかみさん」を英語で挙げていたり、6年生の40ページでは、「およげないりすさん」といったような道徳の読み物がよく掲載されていたり、国語も、6年の66、69には、「お手紙」といったような、他教科とのつながりを色濃く出しているところがユニークだなというふうに思ったりするところが出てきました。

また、3年生社会科の地図記号が5年生の94ページに出ていて、地図記号を英語で書く取組などもユニークだなというふうに思いました。

中学校につながるころでは、6年の最終単元、好きなこと、できることなど、1ページずつに書いて完成させるMy Book作りなども面白い工夫だなというふうに思いました。

それから、4年生の社会科で学習する都道府県を5年生の英語でも学ぶことで、児童の日本に対する親しみを湧かせているなと思いました。

6年生では、5年生で地球儀や地図の扱いを学んでいることから、「Dream World Tour」で世界地図を扱っています。

このような全学年の復習を活用しているところなどは工夫を凝らしているのではないかというふうに思っています。

それから、もう1つ、やはり開隆堂出版さんについては、これも皆さんおっしゃっているように、まず、8ページ、9ページで3、4年で学習したことと、10ページ、11ページ授業で見える20の表現といったことをきちんと押さえて、3、4年生からの継続を図っているということ。

それから、単元の導入では、簡単なゲームやアクティビティなどを行って、話すことを重視した内容となっている。

東京書籍が書くことに多少力を入れているのに対して、開隆堂出版については、いわゆるアクティビティを通した、話すことを重視しているというところに多少

の違いが見られるかなというふうに思っています。

2つ目は、場面設定が日本語で詳しく書かれているので、全ての児童にとってはイメージを持ちやすく、学習の見通しを持つことができるというふうに思います。

5年生、6年生にword bookがあつて、児童にとって使いやすく、指導者にとっても指導しやすいのではないかなというふうに思っています。

どこの単元の最初にも、単元のゴールや学習の流れが明確になって書かれています。

あとは、他教科に関連した情報や表現が多く、該当箇所は他教科との関連が分かるマークが、5年生の25ページのように、単元の最初のページの右下に書かれています。

それから、単元の終わりに、「Around The World」というコラムや「Story Time」という物語を掲載して、児童の興味や関心を高める工夫が見られています。

ただ、書くことについてはあまり出ていないので、ノートなどを使って補充する必要があるかなというふうに思いました。多少情報量が多い気がします。

それから、先ほど長沼委員がおっしゃっていた、「Can-doチェック」というのは、最終的な子どもたちへのメッセージ、中学に上がっていくときにも必要な情報ではないかというふうに思っています。

以上、私の方からは、東京書籍、開隆堂出版、教育出版を推していきたいというふうに思っております。

5人全員が推しているところが東京書籍ということになっておりますが、英語の採択については、東京書籍を仮採択することにご異議ございませんか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、英語については東京書籍を仮採択することといたします。
では、次に、「道徳」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 道徳につきましては、6社でございます。東京書籍、教育出版、光村図書出版、
日本文教出版、光文書院、学研から採択をお願いいたします。

教 育 長 それでは、審議に入ります。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
高野委員、お願いします。

高 野 委 員 道徳の採択に当たりまして、各校で道徳公開講座が開かれておりましたので、
3校ほど行って、少し道徳の授業、1年生から6年生の授業を拝見してきました。
その中で、道徳が教科化されたときに比べて、少し話し合い活動ですとか、その
辺が少なくなっているのではないかなというような印象を持ちました。

そういう点で、まず、話し合い活動が促されるような内容のものということをもつ視点としました。

それから、もう1つの視点は、板橋区の中学生は生徒会交流会というところからずっと長年にわたっていじめ対策について取り組んでいます。ですから、道徳の中でも、いじめについて取り上げているところを選びたいと思ひまして、話し合い活動、それから、いじめについてという、この2点を中心に見てまいりました。

まず、その中で3社。

まず、1社目が東京書籍です。東京書籍は、4年生以上の巻頭の「道徳の学習を始めよう」というところがあって、6ページのところに、「道徳の学習を始めよう」「どんな学びをするのか」というところがあって、上に「気づく」「考える」「広げる」「深める」というような授業の流れを書いています。

そして、下の欄に「このような学び方もあるよ」として、「やってみて考えよう、個々の役割演技」や、「演じて考えよう」、それから「問題について考えよう」などという、このような自分が自ら演じることで考えていくという考え方を示しています。

そして、次のページ、8ページのところから、「ちょっと話し合ってみよう」というページがあります。上の段で、すごく短い文章を読んでいって、そして下のキャラクターがお話を読んで考えたことを話し合ってみようということで、キャラクターが「私だったら、こうするな」とか、「私は違う考えだな」とか、「比べてみたら」とかというような、色々な考え方のポイントを出して紹介しています。

それから、あと、1年生ではスタートカリキュラムで活用できる教材が7時間分あって、挨拶を書き込んだり、外での約束、いかのおすしなどが分かりやすく紹介されていて、1年生の道徳もすごく分かりやすく、子どもたちが道徳というものはどういう勉強するのかということに入っていけると思ひます。

東京書籍では、「安心・安全」、それから、「いじめについて」「情報モラル」「命について」「自分について」という5つのユニットが取り入れられています。

これは、目次の中で確認することができます。

いじめについては、各学年、2つのお話から考えようとして、2つのお話とコラムが載っています。

例えば4年生ですと、いじめについては、38ページから、「いっしょになって、わらっちゃだめ」と、44ページの「となりのせき」という2つの読み物を読んで、真ん中に「つながる」「ひろがる」として、「いじめに「NO」の空気をつくる」というコラムが入っています。

5年では、同じように、子どもの権利条約、また、6年では、いじめ防止対策推進法など、そのようなコラムがいじめのユニットの中に入っています。

その他の情報モラルのユニットでは、1年から6年まで、発達段階に合わせて進められていて、例えば2年生では、52ページなのですが、この情報モラルのところも漫画で示されていて、大変分かりやすく、学年に沿って進められています。

あと、3年では、著作権クイズなど、その学年でも楽しく学べるような内容になっています。

それから、巻末に、各学年、考えるためのツールとして、「心のメーター」「心のものさし」「心の地図」が載っています。

これは、「心のメーター」とか、授業が進むごとに、自分の考えをメーターで可視化できて、子どもが自分の考え方の変化に気づくことができるのではないかと思います。

あと、6年の103ページのように、「つながりを広げる」というところで、人権問題で、病気の人を差別する人たちとの問題では、「あなたの身の回りにも差別がないかな」などと考えさせたり、話し合ったりできるようなページになっています。

それから、もう1社は光村図書出版です。光村図書出版も、巻頭の「道徳が始まるよ」では、道徳の学び方について、児童に分かりやすく示しています。

特に1年生では、4ページのところで「道徳が始まるよ」というページがあるのですが、道徳では何を考えるのかなということで、自分のことやみんなのこと、相手のこと、命、自然など、道徳は心について考える時間だよ、色々な心を見つけようと、1年生が道徳という授業で何を勉強していくのかということをお大変分かりやすく書いている点がいいなと思いました。

2年生以上については、みんなで気持ちよく話し合うためのコツが、学年に応じて示されています。

6ページのところから、2年生以上で、みんなで気持ちよく話し合うためのコツとして、コツ1、話している人の方に体を向けようとか、コツ2、コツ3というように、話し合いを進めていくための本当に基本となるようなことが示されています。

よく授業を見ていて、話し合いを進めるときに、話すときに、子どもたちはどうしても、みんなに向かって話すのではなくて、先生に向かって話していて、先生と児童の会話のようになってしまっているのですが、こういうところで話し合いのコツを学んで、上手に話し合いができるようになるというふうに思いました。

あと、1年生のスタートカリキュラムの「がっこうだいすき」「きもちのよいせいかつ」など、教材が7時間分あり、保幼小接続に配慮しています。

あと、光村図書出版の特色なのですが、3年生以上で、最初の単元の文章の下の段に道徳の学び方が具体的に示されていて、課題文を読むときに注意したいこと、考えたいことに気づくことができるようになっています。

例えば3年の10ページ、「あいさつ名人」のところでは、上に教材文があるのですが、その下に、道徳の学び方といって、読むときに注意する点を示しています。

上の文で星印を付けたところに、そこについて、例えば、僕は大きな声で「おはようございます」と挨拶をしたというところには星がついていて、下のキャラクターが、ここが、大きな声で挨拶できるところがいいなというふうに、いいと

思うところを見つけるような読み方を紹介しています。これが各学年、その発達段階に応じて、道徳の文章を、教材文を読んでいくときの読み方を紹介しています。

それから、あと、各学年に、いじめ問題、情報モラル、環境、共生などについての教材をコラムと組み合わせて学習するまとまりがあります。

5年の133ページは、「共に生きる」として、「ブランコ乗りとピエロ」「だれもが幸せになれる社会」の2つの教材文と、コラムとして「子どもの権利条約」。

6年の40ページのところなのですが、「いじめを許さない心」、そして、「泣き虫」、それから、その後に、「この胸の痛みを」の2つの教材文が載っています。

そして、「いじめを許さない心」のコラムとして、「隣る人」として寄り添う」という文章が載っているのですが、この2つのユニット、どちらも読みごたえがあって、子どもの心に響く内容だなというふうに感じました。

あとは、各学年に「心を通わそう」とか、「なんだろう なんだろう」という教材が各学年に配置されていて、考えたり、話し合ったりできる発展的な内容になっています。

この「心を通わそう」というのは、例えば3、4年では、「ぼかぼか言葉を掛け合って、よかったことを話し合おう」とか、6年では、「相手の気持ちを考えて言葉をかけよう」とか、「なんだろう なんだろう」は、例えば3年生の98ページで、ヨシタケさんの絵が描いてあるのですが、「うそ」ってなんだろう」というような読み物。これが同じように、4年では「友達」ってなんだろう」、5年では、「しあわせ」ってなんだろう」というふうに、考えたり、話し合ったりできる内容のものがあります。

あと、もう1社は日本文教出版です。

日本文教出版は、2、3ページに「道徳のとびら」というのがあって、その次の4、5ページで「道徳の学び方」があります。

この「道徳の学び方」のところが、「気づく」「考える」「深める」「見つめる」「活かす」という学び方をして、その下に、「どのような方法があるかな」というところで、「話し合ってみよう」「動いてみよう」「書いてみよう」ということが書いてあります。

これが写真で子どもたちの様子が示されていて、実際の授業の様子をイメージしやすくなっているのかなと思います。

あとは、1年生の16ページでは、朝、学校で先生に会ったときに挨拶するときとか、あと、隣のページでは、友達と別れるとき、こういうものを実際に絵にしたり、それとか、6年生の30ページでは、段差の前で困っている車椅子の人の立場になって考えたり、話し合ったりする、ぐっと深めるというのが各学年に設定されています。

これは問題解決的な学習や体験的な学習を促すことができ、いずれも実際に話し合ったり、発表している場面を写真で紹介している点がいいと思います。

あと、5年の146ページの「すれちがい」というところでは、まず最初にこ

の教材文を読んで、すれ違ってしまった主人公2人に足りなかったのはどのような思いなのかなというところで、上に2人の気持ちの動きが書いてあって、ここでこういうふうに2人の心が離れていってしまったんだなということ、また開いた心の距離をどうすればいいんだろうということ、2番で、2人1組で2つの役を演じ合って話し合ったり、最終的にはクラスの中でどういうことを大切にすればいいのかなというような話し合いのところにつなげています。

各学年に設定されている「心のベンチ」というのがあるのですが、授業で学んだことを児童が実践する助けとなっていて、4年の78ページでは、インターネットの向こう側で、インターネットでやり取りする際の注意なんか書かれています。

いじめに関しては、2年の134ページの「ふわふわ」「ちくちく」とか、4年の94ページと5年の80ページでは、「なくそういじめ」というのがあります。

例えば5年の80ページを見ると、このいじめが起きている状態という図があって、いじめを受けている人が真ん中にいて、それを、いじめをしている人、はやし立てる人、見ているだけの人、見て見ぬふりをする人など、このいじめの構造を図に表しています。

これは4年の方も同じようになっているのですが、みんな自分がいじめを止める力を持っているんだよ、みんなと一緒に立ち上がろうというようなページになっています。

6年では、いじめと法律として、いじめ防止対策推進法を取り上げています。

いじめについては、大変よく取り上げているなというふうに思います。

あと、もう1ついいなと思ったのは、日本や地域の伝統文化に触れる教材を取り入れている点です。

1年では、44ページ、「にほんのおかし」で、涼しそうな金魚のお菓子の写真とか、2年では祇園祭、他にも三社祭だとか、エイサー祭り、青森ねぶた祭りとかを取り上げています。

3年では、「ふろしき」という項目では、重箱とか、大きなスイカなどの包み方などを写真で示しています。

6年の「ぼくのお茶体験」というのは、これはゲストティーチャーから茶道の作法を学んだときの体験の様子を漫画で分かりやすく示しています。

この伝統文化について取り上げた項目では、いずれも写真をすごく有効に使って、目で日本のよさを感じられるところになっております。

最後、日本文教出版の特徴の別冊ノートについてです。

区民アンケートでは、別冊ノートは要らないんじゃないかというようなご意見もたくさんありました。でも、実際、今回を含めて、道徳の授業を実際に行き行ったときには、このノートを子どもたちが使って、自分の考えをまとめたり、振り返りをして活用している場面を大変多く見えています。

また、今回からは、ノートにも二次元コードがついて、さらに効果的な使い方も期待できるのではないかと、やはりこの別冊ノートについては、不要と

いうよりも有効に活用されているので、あった方がいいなというふうに思いました。

以上、3つの会社がいいと思って、紹介させていただきました。

教 育 長 ありがとうございました。
 では、青木委員、お願いします。

青 木 委 員 道徳については、言うまでもなく、読み解く力を、板橋区で進めようとしている。これが求められる教科であると深く考えて、自分の人間力の確立に資することというのは大変重要だと考えております。

そのような意味では、まず、教科書の内容から気づかせる、そこから考えさせて、活かすといったような、自分のものにできてきたという、その辺がうまい形で促せる教材、題目が学年ごとに応じた配置になっているかという点を重要視したというところがポイントでした。

それから、今、高野委員のお話の中でもあったとおり、話し合い活動というのが非常に重要だということも含めて、少し見させていただいて、私も3社、推させていただきます。

まず、1社目、東京書籍です。この東京書籍の特徴は、まず、見開きのところに、非常に意味のある物語、小さいストーリーが書いてある。

それから、1年生の最初の絵になるのですが、10ページに「私の好きなこと」というのがありますが、これが非常に特徴的で、東京書籍さんの特徴というダイバーシティですね。もう見てのとおり、車椅子に乗った子、それから、外国の子ども、これを思わせる子がいて、かつこの絵は他の会社と比べて特徴的なのが、話し合い活動をしている絵、そこから始まっているわけで、これは道徳の授業の基本だよというようなことをもう絵が既に明示している、イメージさせているというところが非常に特徴的だというのが、まず、自分として注目した点です。

それから、東京書籍では、「つながる・広がる」「絵本の世界へ」という項目が各項目で紹介されておりまして、こういう本にさらなる学びがあるよということを紹介しているのもいいかなというところ。

それから、1年生の最初から安全教育、いかのおすし、それから、情報モラル、これについても、情報モラルが26から27ページですね。いかのおすしが22から23ページといったところで取り扱っている点、ここも注目すべきところだと思います。

そして、最後の巻末にそれぞれ置いてある「考えるためのツール」、これもご意見があったと思いますが、よく工夫された教材であるということが1つ大きなポイントです。

それから、2社目は光村図書出版ですね。こちらも見開きの内容というのが、考えさせるという意味でよい内容ではないかなと思うことと、各項目ごとに「一言アドバイス」という形で、「こころん」と「きらりん」ということで、そのようなキャラクターを使って、それぞれの項目ごとに出てきている、その一言アド

バイスというのが非常に大事なコメントになっていて、ここはなぜというようなところを、話し合い活動を促していくためにもいいのかなと思った次第です。

それから、巻末の「学びの記録」という、ここの作りも工夫されている点。

それから、話し合い活動という意味で、4年生の6ページから7ページになりますが、みんなで気持ちよく話し合うためのコツというのがここに紹介されていて、これは大変工夫された内容であるなというようなところを感じました。

それから、同じ4年の19ページは、「考えるヒント」というところで、道徳で使う言葉というのが紹介されていて、これは道徳のみならずですが、学びを深めるためのよい題材であるなというふうに感じました。

また、6年生の76ページから77ページ、「よりよい世界をめざして」という項目があります。こちらはSDGsを深く理解するための工夫がなされた題材になっているかなと思ひまして、最後、6年生の巻末の付録、「学びの工具箱」というのがありますが、これは思考整理のためのよいツールというふうに考えました。

それから、3社目が日本文教出版です。これは、今、高野委員からもご指摘があったとおり、道徳ノートを各学年に付されていて、これは教材としてやはり充実しているのではないかなと思います。

話し合い活動の中で話したことをメモしておくだけでも、このノートは使い勝手がいいと思いますし、このノートに書かれたことを、担任の先生が時々集めて見るということは、生徒個人個人の考え方や今の生活状況というか、感情も含めて、このようなことをフィードバックするのに非常によいノートになるのではないかなというふうに感じております。

私も学習活動で、先週、佐渡島へ少し行ってきまして、そこの小学生と1日、佐渡島の観光に付き合わされたので、その中で、ある小学生に言っていたことが、先生に毎日一言日記を書かされると言っていました。その一言日記というのは、全部、必ず先生が集めて、それで先生がよく見ているという話なのです。

それはどういうことだったかということ、その生徒一人一人の心の状況を含めたところを、毎日毎日、先生がモニタリングしているという意味で、非常に感銘を受けた次第です。

そのようなところに使えるツールという意味で、この道徳ノートは1つの題材だろうかなと思ったので、これは教材としてやはり大事なのかなというのを考えました。

あと、各項目ごとに考えてみようです。「見つめよう」「活かそう」がコメントされておりまして、これもコミュニケーションを促すためのよい題材かなと思っています。

その他、日本文教出版では、1年生の16から17ページのぐっと深めて実践的な学びにつなげている点。6年生の30から31ページ、思いやりについて考えていく、この辺も実践的な学びにつなげている。

また、1年生の22ページから23ページの「心のベンチ」では、しっかりと考えさせる工夫をしまして、同様に、6年生の66から67ページの「夢に

向かって」や、40から41ページの「めざせ！情報モラルの達人」、この辺も非常に話し合い活動に必要な題材かなというふうに思いました。

それから、巻末の「見つけた！ここにも道徳」というのも考えさせる工夫をしているなというところなどが目に留まったということで、この3社を推薦させていただきます。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。

長沼委員。

長 沼 委 員 東京都の小学校では、全校、道徳の授業を公開して、そして、保護者向けの講演会をするというのがセットになって、道徳地区公開講座というのをやっています。私は保護者向けの講演会に、講師として呼ばれることがあるので、板橋はまだ行ったことがないのですけども、他の区の色々な道徳の授業を見てまいりました。

教科書も、とても上手に先生方が使いながら授業をしていて、道徳の授業の読み物教材の使われ方というのはパターン化されていて、まずは読み物教材に入る前に、その価値項目に迫る導入のお話があって、自分たちのリアルな生活実態から入っていき、そして、読み物教材で、その主人公なり、関連する人物の心情を読み解いていくという授業の時間があり、そして、最後、そのときに今度は自分ならどうすると、必ず最後そこに戻ってきて、一番最後は読み物教材から飛び出して、では、これからの自分はどうした方がいいということを考えていくという、このパターン化された授業をしっかりとやっていく必要があるということ。これは保護者にも実はそういうことをやっているのですよ、ぜひご家庭でも考える力を養ってくださいという話をするのですが、そういう授業がしやすいかどうかというのは教科書のポイントになるのかと思います。

先生から見たときに、一番大事なのは発問なのですけども、読み物教材の中の発問、大体2つから3つ、その中の1つが、いわゆる主発問なのですけども、ここをどういうふうに構成するのか。実際に教科書にもそれが書かれています。そのとおりやってもいいし、先生が少しひねってやってもいいのですが、この発問の書かれ方は結構ポイントになるので、全社比較しました。

まず、東京書籍さんは発問が2つあって、1つがこの読み物教材の中の主人公の心情を読み取るもの。もう1つが一般的に読み物教材から飛び出して価値項目に迫る。大体、この2つのパターン、種類が基本になるのですけども、これが東京書籍さん。

教育出版さんは、「考えよう」、読み物教材の中の発問が多数、そして、「深めよう」ということで、一般の価値項目に係るものが1つ。まずここが違います。

光村図書出版さんは、いわゆるメインの価値項目に迫る発問がぼんとあって、さらに3つあります。そのうちの2つが今の教材、1つが価値項目に迫る、かなり充実しています。

充実していれば、若い先生はそのとおりにやればできちゃうということもあるのですが、ベテランの先生からすると、「そこまで書くの」と、「私がもう少しそれを考える」「今の子どもたちの実態に合わせて考えることができるものがないよね」と思う先生もいらっしゃる。

日本文教出版さんは2つですね。「考えてみよう」が読み物教材に関する心情を読み解く発問、もう1つが「見つめよう活かそう」で、一般的な価値項目につながる発問です。

光文書院さんは、「考えよう」が2つで、読み物教材に迫る発問、さらに「まとめよう」「広げよう」があって、「広げよう」を見ると、「何々してみましよう」ということで、いわゆる道徳的実践のところまで書かれています。しかも「やってみましよう」ですから、子どもたちが考えた方がいいのではないかなという気がします、最もたくさん書かれているのが光文書院さん。

最後、学研さんはシンプルに2つ。読み物教材に迫る発問と一般の価値項目に迫る発問ということで、この違いを見ただけでも、先生が使いやすいかどうかということの差にはなっているだろうと思います。

もちろん読み物教材にどういうものを盛り込むかとか、どういう写真とかイラストをつけるかも大事なのですが、この発問をどうするかはものすごく重要なので、ここのところの違いは明確に、まずは示しておきたいと思います。

その上で、3社、私も選んでみました。

まず、今使っている日本文教出版です。総合的に見て、一番ここが優れているなという印象を持ちました。

まず、目次を見ると、ここがもう既に4つの価値項目が色分けされているということで、先生にとっては大変使いやすい構成になっています。

さらに、ここで、グーマークといって、グーマークは何かというと、考えをぐっと深めるページで、友達と話し合ったり役を演じたりしてみましようということで、やはり協働的な学びが大事になってきますので、こういうことがやりやすい單元なのかどうかもここで一目瞭然になっています。

また、板橋区で力を入れている「SDGsで考えよう」というページのことについてもしっかりと触れられているというのがポイントかと思います。

それから、6年生の50ページの教材につきまして、これは教材の中身についてなのですが、「ウイルスとの闘いー父にエールをー」という読み物教材を入れ込んできています。

やはり他の教科のときも申し上げましたが、新型コロナウイルス、これについてのことをしっかりと子どもたちが捉えていくという意味で、ここに道徳教材としても入れ込んできているという、大変これは意味のあることだなというふうに見ておりました。

さらに特徴的なのは道徳ノートでして、こちら、今のバージョンよりもかなりシンプルな形になって、恐らく現場の先生方はこちらの方が使いやすいだろうなと思います。

実際にどういうことを書かせるのかということのも、各先生がポイントを絞って提

示をしていきますし、それから、おうちの人からというところも時々あって、これは保護者の方も見て、一緒に子どもと保護者が対話をするという機会も用意されていると思います。

区民アンケートの中にもこういうのがございました。教科書に学習記録を書かせるより、ノートに記載して家庭に持ち帰らせる方が親としてはありがたい、ノートに教科書の目次があって、どの教材を学習したのか分かりやすいということで、このような保護者の声も参考にしました。とてもいい仕上がりになっているというのがこの日本文教出版さんでした。

続いて、東京書籍です。こちらも、発問はシンプルに2つで、1つが読み物教材の中の人物の心情を読み解く発問、もう1つが一般的な価値項目に迫る発問ということで、非常にシンプルになっています。

こちらのいいのは、目次はとてもシンプルなのですが、目次をさらにめくると、例えば6年生でいうと4ページ、5ページなのですが、ここに4つの価値項目が色分けされていて、分かりやすく、どの項目なのかというのが明確に分かるようになっていきます。

これはやっぱり先生にとってありがたいと思いますね。こういう工夫は非常に大事だと思います。

また、この構成として、板橋区の授業スタンダードに適用しやすいということで、例えば6年生でいうと、6、7ページに書かれているように、「気づく」「考える」「広げる」「深める」というステップを踏んでいくということが明確に描かれていて、道徳をどのように学んでいくのか、逆に言うと、先生からすると、どのように授業を構成していくのかというのが明確に分かるようになっていくのも特徴的です。

このような工夫がされているのが東京書籍さんの特徴かと思いました。

もう1社が光村図書出版です。こちらは大変分かりやすく、まず1年生で見ると、最初のところで、これは他の社にも共通してありますが、光村図書出版さんの1年生の最初のところで、7時間分でしょうか、スタートカリキュラムとしても使えるようになっていて、実際、生活科などとも連動しながら、学校生活について考えていくことができる、そういう教材がしっかりと用意されています。

各社、スタートカリキュラムにうまく適合しているのは東京書籍さんと光村図書出版さん、それから、文教出版さんですね。先生方の調査からも出てきています。

光村図書さんは、発問が非常に多く書かれているバージョンで、若い先生にとってはこの教科書のとおり、これを参考にしながら授業がしやすいというのが特徴になっています。

さらに言うと、光村図書出版でいいなと思ったのは、SDGsとの関わりとか、それから、他教科との関係性。2年生以上の目次のところを見ると、SDGsとの関わりにはマークがつかますよと、それから、他の教科とか特別活動などとのつながりも、どの教材がどれなのかというのも分かるマークがつけてありますよということが明確に書かれていて、このようなところも先生方にとっても使いや

すい構成になっております。

ということで、以上、3社を推したいと思いますが、一番いいのは日本文教出版さん。

以上です。

教 育 長 ありがとうございました。
 では、野田委員、お願いします。

野 田 委 員 道徳について述べさせていただきます。

私の方からは、観点として、様々な事象から自己の生き方について考えるということで、答えが1つでない道徳的な課題を一人一人が自分自身の問題と捉えて、向き合って、そして、考えて議論する、そのようなところで使いやすい教科書であることということをポイントとしていまして、これまでと同様に、板橋区授業スタンダードに沿った流れになっているかということと、単元ごとに学習の見通しが立てやすいかというところ。

これは、やはり道徳の授業というのは、先生にとっては、経験度合いによって、進め方とかに困る方もいらっしゃいますし、個性が出過ぎる場合もあつたりとかするので、どのような経験値の先生にとっても使いやすいこと。また、特に私が着目したポイントとしては、話し合い、授業スタンダードでいけば、「シンク」「アウトプット」のところで自身の考えを深めることができるというところをポイントとして全体の構成を見て判断させていただきました。

私の方からは、日本文教出版、東京書籍の順番で推薦させていただきたいと思っております。この2社につきましては、これまでの委員の皆様もお話されていますような内容で、非常に似た構成になっております。

全体を通じて見てみますと、考えることを促す流れになっているのは全てにおいて見受けられていて、著名人の活動や功績について触れるなど、現代的な内容が取り込まれているなどの工夫も感じています。

別冊ノートにつきましては、日本文教出版さんが作成されていまして、東京書籍においてはデジタルノートという形で作成されておりました。

日本文教出版につきましては、先に申し上げました観点から、やっぱり教科書の構成が非常によく、授業スタンダードに沿った形で構成されていて、全体的に、一貫して、「気づく」「考える」「深める」「見つめる」「活かす」といった流れになっていて、道徳的課題に対して気づいたことを友達と話し合って、そして自分を見つめ直し、考えていった考え方の流れになっていることから、考え方が身につく構成になっている。

特に話し合いなどの授業の進みやすさ、要するに最初の読み物の部分というのが簡潔に示されているというところと、デジタルコンテンツなども使えて、個人個人がこの文章を読み込んで、それでどう考えましたかとか、そのような授業というわけではなくて、みんなで内容を聞いたりして、頭に入れた中で、じゃあ、話し合おうというような形で、比較的話し合いの時間が取りやすいような

構成になっている印象を受けています。

別冊の道徳ノートについては、これまで出された意見だとかが大きく反映されていて、使用用途の多様性が高まった内容に更新されていることが見られまして、これは経験の浅い教員にとっても使いやすい形になったのではないかということが印象づきました。

別冊のノートのよさとしては、やはり授業で考え、話し合ったことの振り返りが1冊のノートにまとまっていることによって、引き続きの授業などで前回の授業で考えたことや話し合ったこと、自分の考えを一目で振り返ることができるということで、非常に効率がいいということと、やはり家庭での学習においても、保護者としても、このノートを見ることによって、こういう場面でこういうことを考えたんだとか、そのようなところが非常に分かりやすい形になるので、いいと思いました。

全体的にも、文章資料が簡潔で適切な分量になっているというところで、それによって、読む時間の短縮、そして、その内容を読み解くための時間というところの統一が図られているように感じられて非常によいということで、また、現在、使用していて使いやすさなどにおいて、使いにくいなどの意見が出ていないことを含めて、日本文教出版を第一に推薦したいと思います。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

それでは、私の方からお話をさせていただきます。私の方は2社、推薦したいなと思います。

1つは日本文教出版です。日本文教出版は、皆様もお話のように、「気づく」「考える」「深める」「見つめよう」「活かす」というような内容の順番で授業を構成するというようなところ、これはどこの教科書会社もそのような含みを持っているのですが、スタンダードに合っている、話し合ってみようとか、動いてみよう、書いてみようといったような具体的な内容が書いてあります。

5年生を私は見てみたいと思って、5年生の4ページのところに、「気づく」「考える」「深める」「見つめる」「活かす」、そして、その下に「話し合ってみよう」とか「動いてみよう」「書いてみよう」。

道徳は考え議論する道徳と言われているように、まず、考える、そして、友達と交流し合う、議論し合うということ考えたときに、読み解く力というのは、インプットして、それをシンクして、アウトプットするという、その流れとぴったりだなというふうに思ったときに、この学び方というのは、まさに合っているなというふうに思いました。

それから、目次の方に戻るのですが、私もこのグーマークというのに実は注目していて、ロールプレイングとか、そのようなものというのが、個人の発想ではなかなか難しいのですが、このようなものがヒントになって作れるというのは面白いのではないかなというふうに思いました。

それから、「心のベンチ」というのが各学年とも出ているのですが、いじめと

いう問題については、これは、当然、全部の学年に、題材とともに「心のベンチ」にも書いてあるというところには注目したいところだと思います。

もちろん、情報モラルについても「心のベンチ」というのがあって、少ししたことですが、面白いところだなと思いました。

それから、多面的な見方や考え方を主とするコラムとしての「心のベンチ」というのが系統的に提示されているというところがいいなというふうに思いました。

それから、構成としては、基本的には、見開き2ページの構成となっていて、文章量としては適当だなというふうに思います。

それから、面白かったのは、4年生の152ページの「まあ、いいか」という内容が、何か道徳っぽくないなと思いつつながら、文章ではないのですが、学習がぐっと深まる、扱いが自分ごとになる仕掛けがあってよかったなというふうに思っています。

それから、6年生では、いじめ防止対策推進法についてのコラムがあって、なかなかこの法律というのは子どもたちにはなじみがないのですが、このようなものも載せてあって、分かりやすいなというふうに思います。

それから、先ほど長沼委員から出たように、私も、6年生の50ページに、新型コロナウイルス感染症に関する教材としての「ウイルスとの闘いー父にエールをー」というような題材が載っていること、これは色々な人の見方・考え方というのを学ぶためにも、あるいはコロナというものを捉えるためにも、すてきな題材ではないかというふうに思います。

それから、道徳ノートについては、色々、区民の皆様のお声をいただくのですが、現実的には、区内のほとんどの学校がこれを使っているということと、今回、かなり自由度を膨らませてきて、各学校で使いやすくなったのではないかなと思っています。これは、ぜひ学期ごとに持ち帰らせて、家庭での話題にしていきたいなというふうに思います。

それから、もう1つ、東京書籍です。東京書籍も「気づく」「考える」「広げる」「深める」、そこに「演じて考えよう」とか「問題を見つけてみよう」とかというものが出てきているわけですが、ここはデジタルコンテンツの使い方についても触れています。

また、5つのユニットに分けていて、「安心・安全」「いじめ」「情報モラル」「命」「自分について」ということで、このユニットに分けて題材が載せられているということです。

あと、話し合いのスキルを巻頭で紹介されており、話し合い活動が活発化されるかなというふうに思っています。

いじめについて考えようというページがあって、そこから、いじめについての内容が入っているというところも工夫されているのではないかなと思っています。

また、ロールプレイングの手法については、4年生の89ページに書いてあって、これも道徳ではよく行われる手法ですが、誰でもできるようになっているなと思っています。

それから、ここにも6年生では、いじめ防止対策推進法についてのコラムが出ています。

情報モラルについても、系統的に確認がなされていて、1年生から6年生まで出ているということ。

それから、実際の話をお初めとして、題材がバラエティーに富んでいるなというふうに思いました。手塚治虫さんや辻井伸行さんのようななど、子どもたちが知っている著名人を取り上げて、興味・関心を引く内容となっているなと思っています。

基本的に見開き2ページ、構成、文章量としては適当であるというふうを考えております。

私からは、以上です。

皆さん方からのご意見をいただいて、東京書籍と日本文教出版が5人から出ているのですが、長沼委員、野田委員からは、日本文教出版を第一にということでご意見をいただいております。

それ以外で、少し皆さん方から、ご意見、東京書籍、日本文教出版のご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 それでは、「道徳」については、日本文教出版を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「道徳」については、日本文教出版を仮採択することとします。
以上で、全ての教科、種目についての審議が終了いたしました。
全ての教科、種目について、次のとおり仮採択いたしました。読み上げさせていただきます。

まず、「国語」東京書籍、「書写」東京書籍、「社会」教育出版、「地図」帝国書院、「算数」大日本図書、「理科」東京書籍、「生活」東京書籍、「音楽」教育芸術社、「図画工作」開隆堂出版、「家庭」開隆堂出版、「保健」大修館書店、「英語」東京書籍、「道徳」日本文教出版。

以上が、仮採択の結果となります。

それでは、令和6年度区立小学校使用教科用図書の給与について、指導室長から説明願います。

指 導 室 長 令和6年度区立小学校使用教科用図書につきましては、原則としまして、今回採択いたしました発行社から発行される新版の教科用図書を給与することとなっておりますが、このことについて、国及び都から留意事項が示されておりますので、ご説明申し上げます。

まず、第4、5、6学年で使用する「地図」、第2学年で使用する「生活」、第2、4、6学年で使用する「図画工作」、第6学年で使用する「家庭」、第4、6学年で使用する「保健」につきましては継続使用することとなっているため、前年度までに給与したものをそのまま使用いたします。

次に、学習指導要領におきまして、複数学年の指導内容が一体となっている教科であって、教科用図書が学年別に発行されている教科、「国語」「書写」「音楽」「英語」「道徳」につきましては、第1学年と第2学年、第3学年と第4学年、第5学年と第6学年の内容が、それぞれ一体のものとなっております。

採択替えにより今年度と異なる発行社の教科用図書を使用する場合、第1、3、5学年につきましては、採択変更後の発行社の新版の教科用図書を使用します。

第2、4、6学年につきましては、採択変更前の発行社の新版教科用図書を使用することとなります。なお、令和6年度に新版教科書が発行されていない学校図書の「英語」につきましては、採択変更後の発行社の新版の教科用図書を使用することになります。

説明は以上でございます。

教 育 長 それでは、お諮りいたします。仮採択いたしました各教科用図書について、本採択とすることでご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように決定いたします。

次に、採択事項3、令和6年度特別支援学級使用教科用図書の採択について、指導室長から説明願います。

指 導 室 長 特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、資料2「令和5～7年度使用の特別支援教育教科書調査研究資料」、資料3「令和6年度使用文部科学省著作教科書一覧」に掲載されております「文部科学省著作教科書」。そして、参考資料のフォルダー内に入っております、参考1「令和5年度教科用図書調査委員会調査研究報告書」、参考2「令和5年度特別支援学級使用教科用図書学校調査研究報告書」となります。

説明は、以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。それではお諮りいたします。採択事項3、令和6年度特別支援学級使用教科用図書については、「令和5～7年度使用特別支援教育教科書調査研究資料」、「令和5年度教科用図書調査委員会調査研究報告書」、「令和5年度特別支援学級使用教科用図書学校調査研究報告書」に掲載されている教科用図書と「文部科学省著作教科書」を採択することで、ご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように決定いたします。
以上で、日程第一 議案第44号についての審議を終了いたします。

○議事

日程第二 請願第1号 板橋区の小学校教科書採択に関する請願（継続）

（指導室）

教 育 長 続きまして、日程第二 請願第1号「板橋区の小学校教科書採択に関する請願」について審議いたします。

請願第1号につきましては、7月13日に開催された教育委員会で審議し、教科書選定作業を適正かつ公正に進めるため、継続審議といたしましたが、先ほど教科書採択の審議が終了いたしましたので、本日審議いたします。

それでは、指導室長から説明願います。

指 導 室 長 請願第1号「板橋区の小学校教科書採択に関する請願」についてご説明いたします。

内容につきましては、7月13日の教育委員会で説明したとおりでございます。

請願項目等は記載のとおりですので、説明は省略させていただき、教科書採択の取扱いについて説明いたします。

請願項目の1点目ですが、現場教職員及び区民の意見の尊重と開示、審議についてでございます。

現場の教職員の意見としまして、学校ごとに学校調査研究報告書を作成し、報告案件として、教科用図書審議会答申の中で教育委員会に報告しております。

また、令和5年6月6日から6月22日までの期間に、区内3カ所において教科書展示会を実施し、区民の方にアンケートを記入していただきました。

その内容は、区民意見としまして、教科用図書審議会答申の中で教育委員会に報告しております。

これらのことから、採択に当たりましては、現場教職員や区民の意見を参考にした協議がなされたと考えております。また、採択後、教科用図書審議会の会議録を公開し、教職員や区民の意見を開示いたします。

2点目の採択の方法と説明責任についてですが、教科書の採択に当たっては、これまでどおり、合議制の執行機関として、委員による議論を行い、様々な意見や立場を踏まえた意思決定を行いました。また、教科書を採択する際も、教育委員会は公開し、議事録も公開することから、説明責任についても十分果たしていると考えております。

3点目の配慮事項についてですが、教科書は、小学校において主たる教材として使用義務が課されている図書であり、児童の教育を行う上で極めて重要な役割を果たすものでございます。採択権社の責任と権限において教科書採択を行うことは教育委員会のなすべき仕事の中で最も大切なことの1つであり、板橋区教育ビジョン2025に基づく教育の板橋の実現を図るために、教育や教科書の本質

を踏まえた議論になったと考えております。

また、教科用図書の採択は、文部科学省の検定審査に合格した図書の中から行われました。検定審査では、生涯にわたって自己実現をめざす自立した人間、公共の精神を尊び、国家社会の形成に主体的に参画する国民及び我が国の伝統と文化を基盤として国際社会に生きる日本人の育成をめざす教育基本法や学校教育法、学習指導要領に示す目標などに照らして、適切であるかどうかを審議されております。

また、引用する資料につきましては、信頼性のある適切なものが選ばれており、その扱いは公正であること、さらに主体的、対話的で深い学びの実現に資する指導ができるように適切な配慮がなされていること、これらのことから十分な配慮がなされたと考えております。

説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
高野委員。

高 野 委 員 ただいま指導室長から説明がありましたとおり、教科書選定作業を適正かつ公正に審議してまいりましたので、今回の請願につきましては、教育委員会としては、採択、不採択の判断は行わずに、教科書採択の結果及び教科書選定作業の内容を請願者に通知することをもって審議終了という取扱いでよろしいのではないかと考えております。

教 育 長 他に質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

(なし)

教 育 長 それでは、お諮りいたします。日程第二 請願第1号につきましては、教育委員会としては請願への採択、不採択の判断を行わず、教科書採択の結果及び教科書選定作業の概要を通知することをもって審議終了とすることでご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように決定いたします。

それでは、委員会の途中ではありますが、議事運営の都合により、休憩といたします。

なお、青木委員は都合により、ここで退席となります。

休憩後は、報告1から再開いたします。再開は13時45分といたします。よろしく願いいたします。

以上です。

(休憩)

教 育 長 それでは、委員会を再開いたします。

初めに、非公開による審議とする案件の確認をいたします。報告1「いじめ重大事態に係る調査について」は、個人が特定されるなどの影響が懸念されるため、非公開による審議とし、報告2「いたばし魅力ある学校づくりプランの進捗状況について」は、8月の文教児童委員会で審議を予定しているため、一時非公開とし、議事進行の都合上、委員会の最後に処理することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように処理します。

○報告事項

3. 志村小・志村四中小中一貫型学校設置検討会第15回検討会の開催状況について

(配-2・学校配置調整担当課)

教 育 長 それでは、報告事項を聴取します。報告3「志村小・志村四中小中一貫型学校設置検討会第15回検討会の開催状況について」、学校配置調整担当課長から報告願います。

学校配置調整担当課長 それでは、「配-2」の資料をご覧ください。

第15回志村小・志村四中の検討会の開催状況についての報告でございます。

こちら、今回、報告事項といたしましては、1件、志村小学校・志村第四中学校改築計画の基本設計について報告をした次第でございます。

中身につきましては、3/11ページからお開きいただければと思います。

こちら、基本設計の概要版という形になります。

設計コンセプトといたしまして、6点、今回、作成してございます。

1点目が、小中をつなぐ「本の森」学校図書館という形で、黒ポチの2つ目でございます、いつでも本に触れるオープンな図書館という形で整理をしております。

2番目、インクルーシブ教育への展開という形で、黒ポチの1つ目、通常級や地域とつながる特別支援学級、ものづくりや運動を通じての交流の他、黒ポチの3つ目、オールジェンダーに配慮したトイレという形で、男女共用個室トイレを複数設置しております。

次のページに行っていただきますと、「主体的な学び」を育む教育空間という形では、これまで進めてまいりました中学校の教科センター方式をさらに進化させた中学校の校舎。4番ですと、「地域連携・地域防災」の拠点となるような仕

組み作り。また、5番では、教職員の活動場所の充実。最後、6番といたしましては、教育環境等の配慮という形でZEB化、ネットゼロエネルギービルディングという形で進めてまいります。

次のページ以降の内容につきましては、建築計画の概要及び各階の平面計画となっております。

10/11ページまで進んでいただければと思います。

10/11ページは、立面計画といたしまして、環境配慮及び街並み形成に配慮いたしました立面計画の考え方を3点ほど述べさせていただきます。

まず1点目は、環境配慮といたしましてZEB、先ほど申し上げましたゼロカーボンに寄与すべく絞られた開口、日射抑制によってエネルギーの消費を極力抑えていく、そのような設えを考えてございます。

今回、窓を大きく取るというよりは、窓を小さくし、開口部を絞っていく、また、日射について絞っていくというところでございます。

また、考え方の2といたしまして、室外機を教室近くに設置いたしまして、配管のロスをなくしていく、そして、考え方の3つ目、建物を小さくするデザインという形で、具体的に申し上げますと、こちら立面図の一番上、少しグレーになっている部分が5階部分でございますが、こちらをセットバックすることにより、小さく見せるデザインというふうに配慮してございます。

最後、11/11ページ、工事工程表がでございます。

工事、中学校、小学校、屋外施設という順にスケジュールを示させていただきます。こちら、中学校につきましては、校舎完成後、速やかに引っ越しを行い、供用開始は令和9年度当初を予定してございます。

中学校が移転した後に既存校舎を解体いたしまして、校庭の整備を開始いたします。一方、小学校の移転時期につきましては、工事の進捗状況、工事の騒音や振動の影響等を踏まえまして整理する必要があると思っております。

こちらの資料では、令和9年度以降に引っ越しという形で、児童への影響を第一に考えて、学校と一緒に、総合的に考え、移転については検討してまいりたいと思います。

また、こちら報告をさせていただいた中で、検討委員の皆様から色々ご質問等をいただいたところでございます。これから入学する保護者への説明、また、グラウンドやPTA室、給食室、また、新たに整備するオープンスペース、教科センター方式への移行について、様々、意見をいただいたところでございます。

これから入学する保護者の説明につきましては、既に来年度入学の保護者説明会にて、工事中の学校生活について詳しく学校長より説明していただいている他、新たに整備するオープンスペース、教科センター方式につきましては、区内の先行事例で多くの成果が出ている事例がございますので、そのような先行例を研究し、準備を進めてまいりたいというふうに回答させていただきます。

「配-2」につきましての報告は以上となります。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

4. 八ヶ岳荘指定管理者の評価委員会による評価の実施

(生－1・生涯学習課)

教 育 長 それでは、報告4「八ヶ岳荘指定管理者の評価委員会による評価の実施」について、生涯学習課長から報告願います。

生涯学習課長 よろしくお願いたします。「生－1」をご覧ください。

八ヶ岳荘指定管理者の評価委員会による評価の実施についてでございます。

1、評価実施目的です。八ヶ岳荘の指定管理者及びその管理運営業務全般に関し、指定管理者制度導入目的等にとり、適正に管理運営されているか、客観的に評価・検証を行い、その結果を施設の管理運営に反映させるために実施するものでございます。

2、指定管理者です。

八ヶ岳フィールドパートナーズ、代表企業が特定非営利活動法人国際自然大学校、構成企業①といたしまして、株式会社東急コミュニティー、構成企業②といたしまして、TSKサービス株式会社でございます。

それぞれの代表者、所在地につきましては、記載のとおりでございます。

3、指定管理期間につきましては、令和3年4月1日から令和8年3月31日までです。

4、板橋区立八ヶ岳荘指定管理者概要

5、板橋区立八ヶ岳荘指定管理者評価委員会委員名簿

6、板橋区立八ヶ岳荘指定管理者評価委員会評価要領につきましては、資料1から資料3として提供させていただいております。

7、実施時期でございます。

(1) 第1回評価委員会につきましては、令和5年8月31日木曜日、現地調査及び指定管理者ヒアリングを行います。

(2) 第2回評価委員会につきましては、令和5年9月28日木曜日に総合評価を区役所にて行います。

続きまして、次のページの資料1をご覧ください。

板橋区立八ヶ岳荘の概要でございます。

1、指定管理者の概要です。

指定管理者名称と代表企業の団体名、代表者所在地は記載のとおりでございます。

企業の概要でございますが、主に子どもを対象とした様々な自然体験活動プログラムの企画運営、学校などの課外授業や企業の研修などで自然体験プログラムの企画運営・指導、各地の青少年施設の管理運営を行っております。

構成事業の①、施設の設備管理、構成企業の②は食堂の運営を行っております。

2、施設の概要です。

施設所在地、規模でございます。

所在地は、長野県の富士見町でございます。

開設につきましては、昭和57年9月、平成4年に研修棟の増設、平成30年に大規模改修工事を行っております。

設置目的につきましては、緑豊かな自然環境の中で、集団生活の体験を通じて、心身ともに健全な少年の育成を図るとともに、区民等の健康増進及び余暇活動の促進を目的とさせていただきます。

建物概要の敷地面積や部屋等につきましては、記載のとおりでございます。

指定管理は平成18年度から制度の方を導入しているところでございます。

現在の指定管理期間につきましては、令和3年4月1日から令和8年3月31日まででございます。

3、事業概要です。

指定管理者が行う業務でございます。

1点目として、区立中学校の移動教室、夏季青健事業等の区主催事業の受け入れ。

2点目として、施設利用承認、利用料金の収納、食事の提供等の施設運営に関すること。

3点目として、設備保守管理、清掃業務等施設の維持管理に関すること。

4点目として、その他、教育委員会が必要と認めることとなっております。

自主事業でございます。

飲料自販機の設置、お土産品の販売、夕食時の追加料理・飲み物の販売、親子キャンプ等でございます。

4、施設の利用状況、直近3カ年につきましては記載のとおりでございます。

コロナ禍で低迷しておりましたが、コロナ前の水準に戻りつつある状況でございます。

5、収支状況につきましてはマスキングをさせていただいておりますので、説明の方は省略をさせていただきたいと思っております。

次ページに移っていただきまして、委員名簿となっておりますが、こちらの方もマスキングをさせていただいておりますので、説明の方は省略をさせていただきます。

資料の3につきましては、評価委員会の評価要領となっておりますので、後ほど、お時間があるときにお目を通していただければと思っております。

雑駁でございますが、説明は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

5. 東板橋図書館の臨時休館について

(図-1・中央図書館)

教 育 長 それでは、報告事項5に移らせていただきます。「東板橋図書館の臨時休館について」、中央図書館長から報告願います。

中央図書館長 中央図書館長でございます、「図-1」の資料を基にご説明をさせていただきます。

東板橋図書館の臨時休館についてでございます。

東板橋図書館、通常の特別整理期間として設定している期間の外に、館外給水管交換工事を実施するため、期間が少し長くなっております。10月10日火曜日から10月23日月曜日、およそ2週間をこの休館期間として行うものでございます。もともとは10月16日から21日であったものが、工事の期間の分延びるという報告になります。

併せてで恐縮ですが、現状、東板橋図書館1階フロア、空調が壊れてしまっていて、冷風機などで今対応しているところでございます。こちらにつきましては、9月7日に工事業者に部品の交換工事をしていただくという形になっております。

1カ月ほど、暑い状態ではあるのですが、扇風機、冷風機などを使って対応しているところでございます。

併せてで恐縮ですが、説明については以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。よろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 では、次に、教育委員会次第にありませんが、追加報告事項はありますでしょうか。

(なし)

教 育 長 それでは、先ほど申し上げましたように、報告1、報告2については非公開として聴取いたしますので、傍聴人の方はご退席願います。ありがとうございました。

(傍聴人 退席)

○報告事項

1. いじめ重大事態に係る調査について

(指-1・指導室)

(非公開)

○報告事項

2. いたばし魅力ある学校づくりプランの進捗状況について

(配－1・学校配置調整担当課)

教 育 長 次に、報告2「いたばし魅力ある学校づくりプランの進捗状況について」、学校配置調整担当課長から報告願います。

学校配置調整担当課長 では、資料は「配－1」になります。

いたばし魅力ある学校づくりプランの進捗状況についてでございます。

こちらにつきましては、年度に2回、進捗状況を定点報告という形で報告させていただいているものでございます。

報告内容の対象といたしましては、1にございます、いたばし魅力ある学校づくりプランとして進めております、第2期の対象校及び第3期の対象校が、本件に基づく報告対象となります。

また、併せまして、魅力ある学校づくり審議会、適正規模・適正配置の審議会も行ってございますので、併せてご報告させていただいております。

2以降が、各グループの進捗状況となります。

2、第2期の(1)からでございますが、まず、Dグループの上板橋第三中学校につきましては、維持改修という形で、今年度より維持改修工事が始まったところでございます。令和7年度まで内部改修と設備更新の工事が進むという形でございます。

(2)の上板橋第一中学校(改築)でございます。

こちらにつきましては、上板橋第一中学校、検討会を重ねてまいりまして、また、並行いたしまして、基本設定が完了しているところでございます。

検討会では、基本設計の報告及び工事中の通学支援について検討させていただいているところでございます。

また、2/6ページ、中ほどですが、基本設計についての説明会を令和5年7月24日、7月25日に実施してございます。また、7月29日にも、予定どおり、説明会が終わったところでございます。

今後の予定といたしましては、検討会でまとめました通学区域変更案に基づきまして、関係学校、町会・自治会への説明を行い、検討会として通学区域変更案についてまとめていくところでございます。

(3)Eグループ(志村小学校・志村第四中学校)でございます。

こちらにつきましては、先ほどご報告させていただきましたとおり、基本設定が終了しているところでございます。

検討会の検討内容といたしましては、3/6ページの一番下段の第13回からという形になりますが、PTAの組織につきまして、まずは別々で運営し、必要に応じて連携していく方向性で考えているところで決定いただいたもの。また、第14回、第15回では、教科センター方式の学校である中台中学校の視察前の

報告、また、設計図書の報告を行ってございます。今後、志村小・志村第四中学校につきまして、基本設計についての説明会を実施してまいります。

続きまして、5 / 6 ページ。3、第3期対象校への対応でございます。

こちらFグループの向原小学校、上板橋第二小学校、また、Gグループの板橋第一中学校、板橋第五中学校につきましては、エリア内の大規模集合住宅建設情報を踏まえた児童・生徒数を基に、直近の人口動態や将来の学校事情を鑑みまして、単独での学校整備手法及び協議開始に向けたスケジュール等を検討しているところでございます。

今回、初めて単独での学校整備という形で出させていただくところでございます。こちら、イメージといたしましては、それぞれグループを組んでいるものについて、統合を実施する、検討するというところではなく、単独で整備をしていくというところで報告させていただくところでございます。

なお、Gグループ、板橋一中、板橋五中の検討と平行いたしまして、まちづくりによる大規模集合住宅の建設により影響を受ける小学校を含めて、必要な対応や整備の優先順位、整備手法を検討したところでございます。

こちら、板橋一中につきましては大山のまちづくり、板橋五中につきましてはJR板橋駅前のまちづくりの影響を受けるといったところでございますが、それぞれ小学校、板橋一中であれば、板橋第六小、板五中であれば、板橋第四小についても対応を検討しているところでございます。

4、最後、いたばし魅力ある学校づくり審議会でございます。

こちらは、6 / 6 ページまで行っていただきまして、第8回の部分で、施設内容、施設更新の部分について検討いただいた他、特別支援教育について、意見の洗い出しをさせていただきました。

現在、中間のまとめの作成に向けて成文化を進めているところでございまして、次回、第9回審議会、来週の木曜日8月10日開催予定でございますが、こちらで中間のまとめの構成案を、1回目の報告という形でさせていただく予定でございます。

「配-1」につきまして、以上となります。

教 育 長 ありがとうございます。質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 それでは、以上をもちまして、本日の教育委員会を閉会いたします。ありがとうございました

午後 2時 12分 閉会